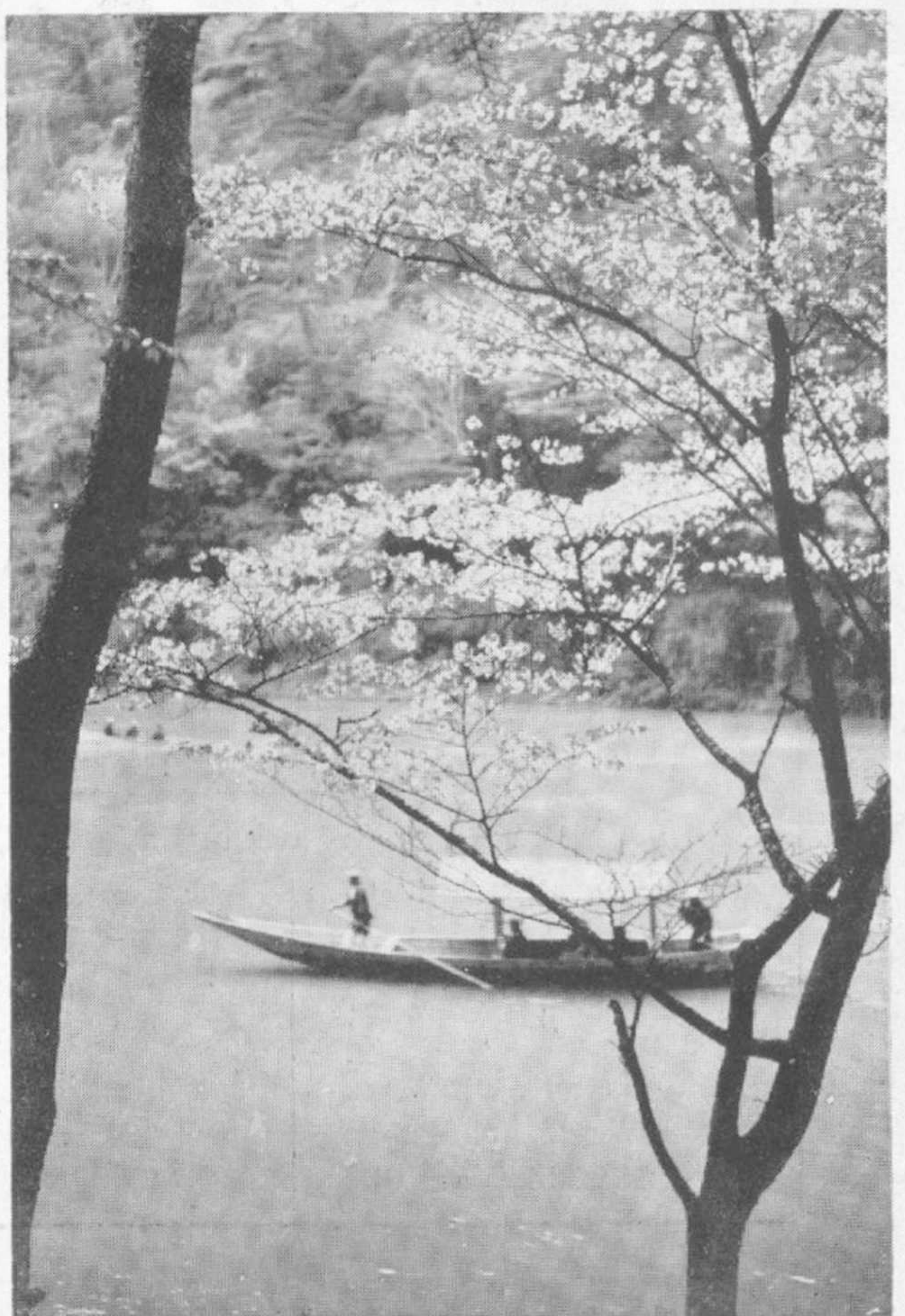
LA REVUO ORIENTA

1937
JARO XVIII
N-RO 3
MARTO



Araŝijama en printempo

JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO

LA REVUO ORIENTA 目 次 (Enhavo) JARO XVIII, N-RO 3

LA REVUO ORIENTA
Jaro XVIII N-ro 3
MARTO 1937

エスペラント週間

——4 月 12-18 日——

エスペラント語を、私達が學び、支持し、宣傳する理由は、いくつか擧げることが出來る。エスペラント語は決して現存する各母國語を排除して一つの世界語だけにしようといふのではなく、母國語の傍に國際補助語として、各人が、母國語と國際語を理解してをれば、國際的には一應不便をしないといふのも一つの目標である。現在數ケ國語の學習を餘儀なくされてをる人々が、最小限度、國際語エスペラントを理解することによつて、世界の文化から立遲れないといふやうになることが我々の希望である。然し乍らさうだからと云つて私達は決して、日本語以外の外國語を總べての日本人は、學ぶ必要がないなどは云はない。將來でも各國の文化といふものが、個有なものとして、殘つてをる間は、私達はそれ等の諸文化を、夫々專門の學者として究明する場合に、それ等の諸文化に伴ふ各國語を學ぶのに何の躊躇が要るであらうか。いや、全く、進んで學ぶ可きである。然しながらさういふ場合は特殊な人々に限られるのである。

次に私達日本人は、私達の祖先が作り、發達させて來た、この日本語を愛する故に、私達は現在の日本語の、甚だしく錯雜してをること、表現能力の低いことなどを遺憾に思ふのであるそして日本語の淨化を希望し、進化を計らうとする人々は、この日本語を、比較し、進化さすべき對象物として、何を求めたらよいか。曾て、私達の祖先達は支那語から、文字、語彙、形式を取り入れ、日本語を豐富化し、進歩せしめたのであつた。又近代に於いては、彼等はスペイン語、オランダ語、ポルトガル語を初め、英語、フランス語、ドイツ語等々の諸國語を學ぶことによつて、日本語に新しい生命を吹き込んだ。今や、私達は更に英、獨、佛、伊、露、西支等々の國語から直接に、全く學び取る方法をとつてよいであらうか。いや、時代はもつと進んで來たのである。各國語の粹をとつた、しかもどこの國の人々の生活の中にも、何の障害もなくはいり得る新時代の言語、エスペラント語からこそ、新鮮な、生き生きした語彙や、表現形式を學び、且取入れるべきではなからうか。エスペラント語によつて、外國の人々に私達の考へを、感情を表現しようと努めることは、同時に、日本語の反省である。この反省によつて合理的により美しい、高い段階の日本語が生れ出でるであらう。日本のエスペランチスト同志がお互にエスペラント語で會話し、專門研究、文藝の飜譯原作を發表することは、勿論將來の準備としてばかりでなく、それ自身、非常により日本語への省察である。私達はこの方面の活動任務に對しても、堂々たる態度をとるべきである。

さて、直に日本を愛し、日本語を愛する人々は同じ意味で國際語エスペラントを愛さなければならない。エスペラント運動に携はる人々はその意味で、眞の日本語の愛好者である。この人々が、エスペラント語の宣傳に努力し、奮闘する姿は、冬籠りを終へて、未だ溫まらない土をつき拔けて出る春の草木の芽のやうに、氣持よい、サツソウさを持つてゐるであらう。いや持つてゐない筈がない。日本人は皆日本語を愛してをる。愛すべきである。この日本人の間に

あつて、國際語を普及することは、よい日本語を作りあげる意味に於いて、本當にやらなければならない大きな仕事である。

春がやつて來る。やがて新鮮な、豐潤な香をのせて、春の風が訪れてくる。大地は生きかへる。私達エスペランチストも冬の休息から、立ち上つて、この若々しい大地の上に新しい種を蒔かうではないか。

ザメンホフが死んで丁度 20 年。エスペラントの最初の broŝuro が、ポーランドの一角から世に送り出されてから 50 年。この年に私達は世界中の先輩のあとをついで、この種蒔きに奮ひ起たう。

各地で 4 月 12 日──18 日を期して、エスペラント週間を行はうとするのは、この種蒔きに新しい力をよび戻すためである。丁度ザメンホフの逝去の日 4 月 14 日をはさんで、全國各地の同志の活躍を期待したい。その具體的な方法は、夫々事情に應じて計畫を立てられることを希望するが、エスペラント運動後援會幹事會で提案されたものに、次のやうなものがある

1) 講習會の開催

2) 講演會の開催

上の二つに對しては、普及宣傳のビラを、後援會から、地方會へ無料で一定數御送り出來る

3) 管地方新聞に、エス語 50 周年に關する記事をかく

4) 各地の名士を訪問。エスペラントに對しての理解を深めて貰ふこと。之には代議士パンフレットなど有效であらう。

5) エスペランチストの印 Verda stelo の insigno をつけることをお互に奬勵し合ふこと。

6) 曾てはエスペランチストであつた人々をこの機會に、再動員すること。失はれたかの如く見える矢の行衞をたしかめるために。そして、再び此等の人々をよみがへらせるのに努力する。

7) ラヂオへの運動。東京中央放送局へ初等講座の開設を一齊に投書すること。この際の注意としては、聽取番號と、各自の住所、姓名（出來れば職業も）を明記すること。

この他各地夫々の獨特の計畫のもとに、4 月のこの一週間、日本全國、到るところで、綠の旗の飜ることを今から期待してやまない。勿論東京としても、充分の努力を拂ひ、成果を擧げたいと思つてをる。各地同志の軒昂たる意氣を想像しつゝ、私達は緊張する。

──(Feb. 16, 37. 久保記)──

萬國大會日本招致問題

小坂狷二

萬國エスペラント大會日本招致は今に始まつた問題ではなく、既に明治 39 年第一回日本大會に於て『明治 50 年東京に開かるゝ萬國博覽會を期して』招待すべしと云ふ花々しい決議がなされたのであるが、第一萬國博の方が開催不能に終り、本邦エス運動も其後一年程で屛息假死の狀態になつたため自然消滅に終つたのであつた。其後、運動再興後も時に大會招致を唱導する者があつたが、多くその人々は新しく運動に參加した熱心家で、その熱心や嘉すべきも、エス界の實情に暗いためになさるゝ說であつた。勿論『やりたい』のは人情であるが、本邦並に世界のエス運動のために『やれない』乃至は『やらぬ方がよい』と云ふのが遺憾乍ら實情で

あるのである。しかも日本のエス運動が幼稚で時機尚早と云ふのではない。全世界のエスペラントの現状がまだそこまで行つて居らぬのである。最近も Olimpiado や萬國博を機として招致問題を取りあげる人もあるので、私見を述べ、それ等の方々の検討に資したいと思ふ。

1） **歐洲以外では萬國大會は開けないのが世界エス界の實情である。**エスペランチストは少數の例外を除いては世界的に貧乏人である。ザメンホフが第一回大會にやつと金の工面をしてワルシヤワから三等車で乘り込んだのは有名な話だが、一般の參加者も今日尚ほ然り。ダンチヒの萬國大會でも私が參加したベルリンからの karavano は獨乙國內は三等車、船は甲板で夜を過ごし（但しゼイタクな日本の吾々は甲板椅子や、kajuto の階段寢臺を註文したが）、ダンチヒでは四等車で乘りつけたものである。然し歐洲內なら一國みたいなもので、遠い處でも一と夜二夜の旅で、且つ割引とあるから千人二千人の人は集まり得る（尤もその大部分は開催國又は附近の國の人）。それが往復に日數と費用がかゝる米國や日本でやつたら何人來るかゞ問題である。日本の政府や會社等は年々大金を投じて留學生だの出張者などを歐米に送つてゐるから、その中にはエスペランチストもあり、大會へも出席する機會があるが、歐米から日本へはさう云ふ人は來ないからわざわざの來朝者だけが目當てとなる。今迄三十回あつた萬國大會に日本から自費でわざわざ行つた人は林好美氏たつた一人きりである（それも漫遊の序）のを見ても、逆に歐洲から自費で日本で開かれる萬國大會へ來てくれる人が十人以上あることは望むは無理なことである。勿論エスペランチスト中には佛のワルニエ等重役級の人もあるが、此等の人は金はあつても暇がないからシベリヤ經由でも往復滯在に一と月餘を要する旅行をすることは出來ぬであらう。過去に於て第六回と第十一回萬國大會が歐洲外の米國で催されてゐるが、その參加者數を調べて見れば日本招致論者も思ひ半に過ぐるものがあらう。

回	（年）	開催地	參加者數
I	1905	Boulogne	約 800
II	1906	Genève	約 1200
III	1907	Cambridge	1324
IV	1908	Dresden	約 1500
V	1909	Barcelona	約 1300
VI	1910	Washington	357
VII	1911	Antwerpen	2107
VIII	1912	Krakov	約 1000
IX	1913	Bern	1203
X	1914	Paris（中止）	申込約 5000
XI	1915	San Francisco	163

1910年は歐洲に於けるエス運動の最高潮時代の影響を受け米國エス運動史上未曾有の活況を呈した時代である。私が滯米中も古い同志から當時の黃金時代を回顧して現下（1925-27）の極端な衰微をなげく愚痴を聞かされたものである。米國運動全盛時代だから米國人の參加が三百餘はあつたらうから、歐洲からの參加は恐らくは二三十名に過ぎなかつた事と想像される。1915年のは歐洲大戰中に全米大會を萬國大會と僭稱したもので、海外からの來會者が無かつたのは當然である。

1909-1914 年の歐洲エス運動隆盛時代にして此の如き有樣であるから、甚だ困難な時勢にある今日に於て、しかも米國よりも來遊に困難なる日本に於て開催すれば、歐洲よりの參加者の

少かるべきは想像に難くない。それでは萬國大會と云ふ名を汚すもので、招致を提案しても否決されるであらうし、又日本の同志としてもエスペラント普及史の光榮のためにむしろ遠慮すべきものであらう。

2） **エス大會は他の大會とは根本的に基礎が違ふ。**他の國際又は萬國大會や會議は政府又は公の團體からの派遣者が主で官費公費の參加で、夫人子供携帶、船も一等、ホテルも一流と云ふのが普通で、三等汽車(日本と異り三等の座席には薄團がなく板のベンチである)で來て同志の處へ分宿させて貰ふエス大會とは雲泥の相違である。萬國エス大會は國家事業ではなく、世界エスペランチストの謂はば私的の懇親會であるから政府からは旅費を出して代表を送ると云ふ樣なことはしない(萬國エス大會でも主催國から正式に日本政府へ代表出席方の書狀は來るが、駐歐官吏でも出席命令を出せば旅費を支給せねばならぬので豫算がないとて一度も正式參加をさせたことがない)。又日本のエス會でも歐洲で開かれる萬國大會へ旅費を醵出して代表者を送るだけの餘裕がないと同樣、歐洲の會でも日本迄代表者を送れば恐らくその會は破產狀態になるだらうから、これも不可能事に屬する。又日本で開かれる他の大會や會議には米國からの參加者が多いが、エス大會ではエス運動の最も劣勢なる米國からは參加者の多い事を到底望まれない實情にある。

3） **萬國大會を催すとその國のエス運動が衰退するおそれがある。**萬國大會を開けば絕好の宣傳となり、その國の運動が俄然隆んになると思つて居る人があるが、事實は正に反對で、大會をやつた後その國の運動が火の消えた樣に疲弊し、中々恢復せぬことが多い事を普及史が吾々に敎へてゐる。これは大會をやりつけぬ國が主催すると、どうしても花々しくやつて宣傳効果を擧げやうとするため無理をすることに基因するのである。例へば世界大戰後フヰンランドのエス運動發展ぶりは實に目醒しいもので、立派な雜誌 Esp-a Finnlando を發行し、政府も補助金を出すなど世界驚嘆の的となつて居た。それが 1922 年に萬國大會を催すや俄然運動は屛息し、雜誌も出せなくなつて了つた。1924 年の Wien 大會などは失敗の好例で、3600 人の參加者があつたにも關らず、大缺損をして大會主催者は屋敷家財を競賣に附せられ身は零落し、運動は一頓挫を來たした。日本でも狂奔的に盛んになつた運動が日本大會を開催して沈滯した例は岡山、仙臺等に見られる。『大會馴れ』のして居る處では金を使はぬ工夫を先づ第一に心掛けてやつて居るのである。

4） **オリンピツクや萬國博覽會と同時期に萬國大會を催すのは最も愚策である。**大會を催す以上は宣傳效果を上げねばつまらぬ。大衆の心が他の催に向つてゐる場合、アメリカ式 ĵurnalismo を尊奉する日本の新聞が萬國エス大會などに大記事を出して呉れることは絕對にないことは明であらう。滿洲事件で喧々囂々の日本攻擊記事を滿載して居た米國の諸新聞がリンドバークの子供がさらはれた翌日から滿洲の M の字も書かれなくなつたと云ふ事實は這般の消息を物語つて居る。かゝる他の催のない時をねらつて大會を開き、新聞をおどらさねば大金を使つた效率が惡くなる。

又、ベルリンのオリンピツクをわざわざ見物に行つた日本のエスペランチストが無かつたのと同樣に、東京のオリンピツクや萬國博を見物に來る歐米人中にエスペランチストが多數あらうとは思へぬ。あつたとしてもそれと同時に大會をやつては大會の方へは御免被られることであらう。オリンピツクや萬國博見物に來る外人中に定めし多數の同志があらうと思ふのは眞の普及者でない素人の考であることは、年々日本の姿にあこがれて來る何萬人の觀光外客中に何人エスペランチストが居るかを考へて見ればわかることである。

5) **然らば吾人は何をなすべきか**。折角のオリンピツクや萬國博と云ふ好機を如何に利用すべきであるか。それには二つの方法があると思ふ。

a) 外國のエス團體又は個人同志を通じて歐米の諸新聞に『日本に於てはエスペラントが非常に盛んで、且つ日本の同志はオリンピツクや萬國博見物に來る歐米の同志に對し獻身的に案內や世話をして吳れる。エスペラントは一と月で充分習得出來るから、同國へ赴くものは先づ之を學び、日本エス學會に來着の時を通知して出かけるがよい』と云ふ樣な記事を根氣よく出させて、宣傳してもらふ。勿論エス雜誌を通じて既成エスペランチストにも出來るだけ來朝をすゝめる。兎に角既成エスペランチストの來朝は多く期待出來ぬから、せめて來る人の中に速成エスペランチストを多數作る方策に出る。さすれば彼我共によい宣傳になる。又、こう背水の陣を布くからには我國に於ても來朝者中には多數のエスペランチストあるべきことを宣傳し、1940 年を目指して多數のエスペランチストを製造することに努めねばならぬこととなる。なほ上述の如く學會へ通知する樣に仕組んで置けば、連絡はとれるから來朝速成エスペランチストに失望を與へることはあるまい。又全國の同志は大會を催す代りと思つて費用と勞力の寄進を惜んではならぬ。

b) 日本大會を『極東』又は『汎太平洋』大會と銘うつて催すことにする。勿論海外同志の來朝を勸誘するが、萬一國外からの來會者が皆無であつても、中華エスペランチストなら現在でも東京に二三十名は居るから結構『ごまかし』得て、相當の宣傳效果を擧げるに難くない。なほ將來出來るだけ在留外國人間に普及を努め、かゝる時引つ張り出せる樣勢揃へする用意は益々必要なことである。

6) **おことわり**。同志を鼓舞するのが普及者の途であるべきに、かく悲觀的な言辭を並べ熱心に水をさすのはけしからんと云ふお叱りがあるかも知れぬが、事實は矢張り事實である。しかも充分實情の裏まで知つて居らねば眞の普及者にはなれぬ。過去三十一年間には色々なエスペランチストを見た。忽ちにして熱狂的な宣傳者となり、他の人々が如何にもなまぬるいのを慨嘆して、いよいよ奮鬪する、さう云ふ tipo の同志が隨分あつた。處がこう云ふ型の人に限つて數年ならずして中々自分の思ふ通りに（實はそれは當然であるのだが）普及されぬのを見て、失望し、愛想をつかし何時とはなしに我等の陣營から去つて了ふ人が多いのである。然るに充分に實情を知りつくし、普及運動の苦汁を嘗め味はつた普及者は二十年三十年努力して休まぬのである。現實に對し幻滅の悲哀を感ずる事たく、不屈不撓の努力を致すのである。彼を想ひ、是を顧みるとき現實をかけはなれ、大言壯語的な擧に出づるのをいましめねばならぬ。今は徒らに夢を語る時代ではない、現實の大道をしつかりと、步をゆるめずに進んでゆくべき時代であるのだ。花々しい vantaĵo を避け、地道な realaĵo に就く、それが吾等の途である。Tro da akcelo ne kondukas al celo!

學會第一主義を持して

——過去十七年をふりかへつてみて——

(**3**) 岡　本　好　次

A. 將來學會をどうするか。どの方面に力を入れるかについてのお考へは。

O. 學會の將來は役員始め全會員が十分考慮すべきでせうがこゝでは私一個人の考へを過去

の經驗をおりまぜてお話し申上げませう。

私は學會が何を措いても今後ますます**經濟的基礎を確立**すべきだと考へます。今日の社會に於て社會全體を動かす様な大きな運動をおこすにはどうしても經濟的に鞏固な基礎をおかなければならないと考へます。だから私は學會は將來もやはり從前通りこの經濟的基礎を鞏固にするといふことに主力をそゝがねばならないと考へます。我が國の社會の中へエス語を立派におしすゝめるにはどうしても相當の金がなければだめでせう。そのために學會の資金の增大をはからうといふのです。そして學會の經濟的基礎をおびやかさぬ程度の金を宣傳に用ひるといふのがよいといふ私の考へです。

A. 旣に學會の全資產は五萬圓を突破したのですが學會が法人になつた當時は基本財產が五萬圓さへ出來ればその五萬圓を永代基金としてその利子でやつてゆけばよいといふ考へだつたと聞いてゐますが旣に五萬圓できたのですからもう經濟的の基礎は鞏固になつたとみてよくはないでせうか。この上金をためる必要がないのだから大いに宣傳にのりだせといふ人もありますね。

O. なるほど大正 15 年頃は五萬圓でよいと思つてゐたのですよ。併し今日ではねえ。しかも學會設立當初の大正 8-9 年頃は二萬圓あればよいといつてゐたのですよ。それに學會を法人にする規約草案をきめた大正 13 年頃は旣に五萬圓でなければだめだと考へる様になつたのです。

我々は社會の動きと世の中の移りかはりを十分認識せねばならないと思ひます。成程學會が法人になつた時は五萬圓を目ざしてゐたのです。しかし今日の世の中は十二年前とは大變ちがつてきました。

十二年前は金利も五分以上でしたから最低五分とみて五萬圓で年に二千五百圓の利子があるからといふので永代基金を五萬圓としたのです。しかし今日は金利は三分五厘位になりました。三分五厘として千六百五十圓です。金利が二分一分となつては(米國などの低金利をまねるとすれば)二分で千圓、一分で五百圓ですから、五萬圓の利子を目當にしてゐたのでは低金利時代には何も出來ません。

私は今日學會が五萬圓の現金をもつてゐたとしても之を全部永代基金に編入するのには絕對反對です。(實際は今日學會のもつてゐる全資產五萬圓の中土地家屋は相當の値に換金できるとしても約二萬圓は倉庫にある書籍の見積額ですから之が全部賣れてしまはぬことには五萬圓の金は手に入りません。)

低金利の外にインフレーションといふ事を考へるべきだと思ひます。學會で出版をしてゐるエス書も賣行は悪いですがしかし賣行が如何に悪くとも獨習書や辭書をふくめると投下資金の一割位にはまはつてゐる様です。手持の金を死藏して(信託にあづけて)三分五厘の利子をもらふよりも金を活用して(出版に投資して)之を一割にまはすことがよい位の事は如何に經濟のわからぬ人でものみこめぬことはありますまい。

よし出版によつて三分五厘にしかまはらぬとしてもこの出版物がエス書である限り之をなすべきだと思ひます。金を預けておいたのでは金が信託や銀行で活用されて三分五厘の利子になるのですがエス書の出版で三分五厘にまはるといふことはそれだけエス書がふえるわけで文献の擴充からみても最も必要なことだと考へます。

A. 金の活用を年二割にも三割にもまはるもつと有利な事業に投じてはといふ意見もありますね。

O. そんなことをいふ人もありますね。アパートをたてよとか、借家をたてよとか。しかしこのセチカライ世の中にアパートや借家で金が二割にも三割にもまはりますかね。よしまはるとしても併し學會の將來としては成程經濟的の基礎を鞏固にするために金を少しでも餘計に蓄積はしたいとは思ひますがそれにしてもエスに何の關係もない事業を自ら經營することはどんなものでせうか。

金を信託に預けるといふことも裏からみればその金をエスと何のかゝはりもない事業に活用して三分五厘程の金利をかせぐことですから實質上はアパートをたてるのと同じですがしかし前者は學會直營の事業なのですから意味がちがふと思ひます。

公益法人たる學會としてかういつた學會の目的と何等關係のない事業を經營するといふことは寄附行爲にも反するかとも思ひますが私には法律の事が判りませんからどんなものでせうかね。

A. さうですね。私もそんなことは不賛成ですね。やつぱりエスに關係のある事業につかひたいですね。尤もエスペランチストを住はせる Esperanto-Domo の様なものをつくるといふことだとよいかもしれませんが。

O. さうですね。しかし宿泊人がエスペランチストだと仲々部屋代のとりたてがむづかしいのぢやないでせうかね。

O. さうでせうな。兄弟や親類に家をかした様なもので拂ふ方も取る方もどつちもルーズになりがちですからね。

それではあなたのお考へでは結局學會の資產は今のまゝにして出版事業を活潑にやつてゆきたいといふのですか。

O. さうです。學會の土地家屋は今のまゝとし今日のやうなインフレーション時代には永代基金は現在のままにしてそれ以上增額せず、ある限りの現金を活用してエス書の出版（一部は宣傳の爲に費す）に力をつくすといふのです。

A. インフレーションの話が出ましたが學會が家や土地をもつ様になつたのはインフレーションを見越してですが。その時の事情も話してくれませんか。將來の學會の金の運用の參考にもなりませうから。

O. 學會も昭和7年には大分金ができたので土地を買つて家をたてゝはといふ事を云ふ人もあつたのですが之を具體化することについては私が中心になつて主張したのです。それは私は我國が金輸出禁止をした當時からインフレーション不可避論者でしたから、どうしても安い金利を有難がつて有金殘らず信託に預けておくことのおろかさを考へたからでした。そして學會が土地を買ひ家をたてることを極力主張しました。併し理事會にかけてみると豫想以上にモーレツな反對がありましたよ。

A. 反對の人々はインフレーションをみとめなかつたのですか。

O. 一部の反對者はインフレーションとデフレーションは交互にくるといふ考への様でした。他の反對者はインフレーションで金(かね)の價値が無一物になつてもやむをえない、原則として金をあづけておくべきだといふ主張でした。學校や役所なんかに關係の深い人々は臨機應變といふことを好まれないからかういつた議論になるのです。ドイツの撒水夫が雨降りにも撒水したといふ話と好一對です。

併し命がけで學會の資產が膨脹することのために努力したつもりの私としてはその命がけで積みたてた學會の資產が政府のインフレーション政策で一朝にしてフイになつてしまつては之

迄の努力が水泡に歸すると考へたから必死の氣持であくまでも土地と家を買つてもらふ樣主張しました。

それで、すつたもんだのあげくやつと理事會の承諾がえられたわけでした。

學會の土地をさがすのも一苦勞でしたが、大井、三石兩理事や龜崎孃等や私達で手わけして方々さがしました。學會の建築についてもこれらの人々や小坂理事の盡力多大でした。

今日家と土地をもつてゐるため學會が得をしてゐると私は考へてゐます。今數字をあげて計算をしてみませう。

土地と家に一萬七千圓程かけました。これを信託にあづけておくと假定すると年三分五厘として年に 17000×0.035＝595 圓の利子が入ります。その上家がなければ火災保険金 7000×0.004＝28 圓がいらぬことになり地租年 120 圓が不要になります。之を合計すれば 723 圓です。土地や家の値上りを考へぬことにして家は 30 年で零になるものとして毎年 7000÷30＝233 圓を償却するものとすれば 976 圓となります。之に家の修繕料を年 23 圓とすれば全體で 1000 圓になります。之を月に割ると 83 圓餘になります。ところで學會が前に新小川町で借りてゐた家は延坪 28 坪位で月 60 圓の家賃でしたが今の家は 60 坪ですから之が借家とすればいくら安くとも月 100 圓以上は拂はねばなりますまい。だから 100−83圓＝17 圓即ち毎月 17 圓の利益となるわけです。(しかも土地がまだ半分遊んでゐるのです)。

これはインフレーションを無視しての話ですがもし將來インフレーションが進行すれば土地も家屋も何倍にも値があがるわけで金のまゝであづけてをくのとのひらきが何倍にもなりませう。地價や家賃もその中にあがつてまゐりませう。

A. あなたは何でも現狀維持の消極主義の樣に一部の側ではみてゐる樣ですがお話をきくと學會に出版部をおいたり有給事務員をおいたり土地家屋を買つたりする時の主張者なのだから仲々の積極論者ですね。

O. あまりおだてないで下さい。私は生れつき石橋をたゝいて渡るといふ樣な性質なのでやつぱり生來は消極主義者なんでせうね。しかし石橋をたゝいていよいよそれが確實だと見きはめがつくと猛烈につきすすまうとする氣持をもつてゐます。だからいゝ時期だと見きはめると積極主義になるのですね。いゝと見きはめがつかぬ限りはどこまでも現狀維持主義ですよ。

A. 新撰エス和辭典は最初一萬部(大正 15 年)印刷したさうですがやはり積極主義のあらはれですか。

O. あれですか。あれは積極主義ではありません、たゞ單價を安くするといふための必要上どうしてもあゝせねばならなかつたのです。千や二千では實費が一册一圓以上にもなりさうでしたからね。私はエス和を一萬部賣りつくすのに三年かゝるとみてゐました。一年で三千三百の割ですよ。ところが實際はその半分の一年半ほどで全部なくなりました。

一年三千三百部の豫想は大正 13 年に學會の處女出版「エス講習用書」(當時定價 50 錢) が 5 月に四千部印刷して同年 10 月 25 日に既に三千部の再版をしたのですから半年程に四千部賣れたといふわけです。一年で八千部のわけです。その半分だけ辭典が賣れると考へて四千部。それを三千三百部と內輪にみつもつたのですよ。

A. 新撰和エスの一萬部印刷も同じく單價をひくゝするためですか。

O. やはりさうです。和エスの時は時勢もわるかつたので一萬が何年でなくなるか豫想がつかなかつたです。併し千部や二千部だと一册の實費が十圓から七、八圓といふのですからどうしても一萬はすらなくちや話にならなかつたのです。今迄の成績でゆくと七、八年から十年位

もはかゝるでせうね。

併し私の考へでは今後は賣れさうなものは初版を千か二千位こしらへて五千乃至一萬位つくつた時の單價を標準に値段をつける方が合理的だと考へてゐます。しかしとにかく和エスは nacia-esperanta vortaro として世界一 ampleksa で世界一の廉價なのは學會に一萬何千圓の金をこれに投じ得るだけの大金が出來てゐたからですよ。之と同じものを同じ値段で營利本位の出版業者が出版することはエス運動が今日の樣な不振の狀態を續ける限りこゝ五年や十年は絕對に不可能だと思ひますよ。

また昔話にもどつてしまひましたが私の考へでは學會が出來てから今日迄の經驗からみて又將來のインフレーションに對する警戒もして、永代基金は積極的に增額せず土地と家はまづ今のままで當分間にあふから、これからはあるかぎりの現金を出版の方面に使ひ文獻の充實につとめるのが一番健全ぢやないかと考へます。

では宣傳費はどこからだすかといふ問題ですが之は仲々むづかしいですね。

A. エス語がひろまりさへすれば學會の出版部の賣上も增すし學會の經濟的基礎も鞏固になるのだからありたけの金を宣傳に投ぜよといふ意見も一部にありますね。

O. エス語がひろまればひろまる程本が賣れることは事實でせう。しかし**宣傳すればするだけひろまるか**といふにそこがむづかしいところです。宣傳といふのは仲々金だけではうまくゆきません。やはり金の外に**人の和、時の利**(とでも申しませうか)がなければだめです。

金を一萬圓かけたから一萬圓だけエス語がひろまり三萬圓かけたからその三倍ひろまるといふのでは絕對にありません。

時が惡いとだめです。大正 13 年頃は 50 錢で賣つた講習用書が大した宣傳をしないのに一年間に七八千部も賣れたのです。それに昨年一年間には 30 錢の講習用書が 284 部、20 錢の短期講習書が 1161 部といふ成績です。

學會出版版部ができて總賣上高が二萬圓といふレコードをつくつた 1931 年と一萬圓にみたなかつた昨 1936 年度の(1931 年度から昨年迄逐年賣上高が減少した)最も賣行のよい書物の賣上部數(グラシヤは最も賣行の惡かつたもの、比較のため入れる)を次に比較してみたい。

	捷徑	講座	初等講座	講習用書	短期講習書	初等讀本
1931 年	1829	785	632	1439	2628	1064
1936 年	1037	312	263	284	1161	428

	鍵 (ŝlosilo)	新撰エス和	新撰和エス	グラシヤ
1931 年	6319	8576	——	77
1936 年	1134	1351	456	1

即ち 1931 年に一番賣れなかつたグラシヤがそれでも一年間に 77 部も賣れたのであるが昨年の成績では一年を通じて賣れた部數が(學會出版物のみについて)

1-10 冊	しか賣れなかつた書籍が	5 種
11-20 冊	〃	13 種
31-50 冊	〃	10 種
50-76 冊	〃	8 種
77-100 冊	〃	4 種
100-200 冊	〃	8 種
201-500 冊	〃	7 種
1000 冊以上	〃	4 種
	十	59 種

といふ慘憺たる數字でした。しかも昨年は運動後援會もあつたので宣傳は相當行きとどいたのであるがそれでも時勢の力はどうとも出來ないのです。

上の事實から考へてみると大正末期から昭和の初に(1931年秋迄)かけてまだ「國際」といふ語が世間にもてはやされた時代と今日の様に「國際」と對蹠の立場にある「國粹」でなければもてない時代と比較してどちらが國際語に有利か云ふことは今更説明する迄もありますまい。

私の考へではこのエスに malfavora な時期がまだ五年や十年はつゞく覺悟が必要と考へてゐます。

そして今日の様にエスに malfavora な時期に三萬五萬の金をエス宣傳にかけてもエス普及はうまくゆかないと考へます。エス運動に favora の時代さへ來れば二千圓三千圓の金をつかつても malfavoraな時代の二萬圓三萬圓の金以上の實力を發揮するものだと考へます。

尤も現狀維持の必要上からみてもこの malfavora 時代こそ少くとも一年に千や二千の金は宣傳費として使はねばなりますまい。その意味で運動後援會の活躍を今年も大いに期待します。

誤解しないで下さい。私が今申上げたのはこのエスに malfavora な時期は無駄だから宣傳をやめよといふのではないのです。もつともつと我々同志が協力して宣傳に努力せねばならぬことは云ふ迄もありません。たゞこゝで學會が之迄苦心してためた三萬圓位のはした金をなげだしたとてこの頽勢をもりかへすことが不可能だからこゝは忍耐づよく我々の陣營をまもりつゞけるのが一番賢明な策であるといふのです。

學會の金はエス運動のための金ですからいづれ將來は運動のためになげだすことは云ふ迄もないことですがそれにしても學會の金を全部エス運動になげだす時期はもつともつと先のことだと考へます。

歐洲綠星の旅から歸朝して

池　川　清

昨年5月2日、祖國を出發致します際には，日本の各方面の同志より、激勵の辭を賜りましたことを心から感激致して居ります。最初の豫定では、先づアメリタ大陸に渡りカリフオルニヤより漸次東上してシカゴ、ニユーヨークを見學し、ついでロンドンに渡り同地にて第三回國際社會事業大會に大阪市代表として出席し、ついで北歐、佛、獨、その他バルカン諸國を歷訪の心算でありましたが都合によつて、豫定を逆にして先づ渡佛し、スペイン、フランス、ロンドン、ブラセル、デンマーク、アムステルダム、アルンヘム (Esp:ranto-Domo)、ハンブルグ、ストツクホルム、ベルリン、プラーグ、ウイン、ブダペストを訪ねて再びベルリンに落着き、それより渡米して、ニユーヨーク、ワシントン、フイラデルフイヤ、トロント、シカゴ、ロスアンゼルス、サンフランシスコを經地して昨年 11 月 27 日無事 Jokohama へ歸つてまゐりました。

途中、各地で日本の皆様の Korespondantoj にお目にかゝり皆様が心からなる日本品の贈り物や、美しい Fuĵi-jama の寫眞や京美人のエハガキ等をうれしそうに私に差し示してくれる人がありました。それらの同志の名前の全部は記憶して居りませんが、旅日記にノートしました方々の尊名は隨時、これから書きつゞけるであらうと思ふ歐米エスペラント日記の中に見出されるでありませう。(同日記は Esperanto 誌上に連載されてゐますから、若し Korespondantoj を各地におもちの方は同誌を御購讀下さいませ)。

それらの同志は或る者は日本の Samideanoj の親切さ、誠實さ、勤勉さを衷心よりよろこび、或時には公衆の集りで、通信者の誠實さを賞讃し、如何に日本人は道德と義務に勝れてゐるかを例示してくれました。そういつた際の旅の訪問者としての私は筆と言葉では現はし得ない尊い魂の淨化を感ずると共に今後益々日本のエス通信が實踐躬行すべき指標が物語られてゐるのを感じました。有難たう。Dankon.

それに反して、或る時には集會の後に個人的に名前と adreso を示してその日本人の不誠實をグチる人もありましたが、そんな時には、一人の日本人は全體の日本人の標準にされるのだと考へて大變殘念なことがありました。一度は必ず返事を出すことに、お互に注意し合ひませうね。

歸朝の Saluto が横道にそれてしまひましたが、その他の旅中エス運動感想は Esperanto 誌上でもらすことゝ致したいと存じます。

最後に一言申し添へておかねばならないことがあります。それは歐米の Esp-istoj は Esperantujo は日本だといつて居ります。だれに合つても日本のエス運動の確實な歩みとその成果には嘆賞をもらして居ります。元 UEA の副會長の Prof. Isbrüker も、おなじみの S-ro Grenkamp も、ブダペストの Julio Baghy も Kalocsay もいづれも東洋の Esperantujo の訪問を夢みてゐます。それ程、歐米の同志は日本のエス運動、卽ち皆様に期待をかけて居ります。忘れないで下さい。

長らく皆様に御無沙汰をしてゐたおわびと無事歸朝の Saluto を申し述べます。

歐米の同志から臭々も日本の皆様に宜敷くといふ御言傳でありました。

動詞 FARI の用法

(11)

K. OSSAKA

§6 (b) Frazeroj kun „fari" en transitiva senco, *daŭrigo*.

Fari	**raporton**=raporti	**proklamon**=proklami	**proponon**=proponi
	sciigon=sciigi	**deklaracion**=deklari	**peton**=peti
	aludon=aludi	**komentarion**=komentarii	**ĵuron**=ĵuri
	rimarkon=rimarki	**kritikon**=kritiki	**veton**=veti
	rimarkigon=rimarkigi	**demandon**=demandi	**konfeson**=konfesi

Pri l' malofta la ceremonio **raporton** oni **faru al** la reĝo kaj aŭdu lian volon. (IT 78/8) 王に此の稀なる祭式の報告を言上しその思召の程を伺ふがよい。

Al kelkaj ne-esperantistaj gazetoj ni **faru sciigon** pri nia afero nur kiel „provan balonon". (OV 338/7) エスペラント關係でない新聞雜誌に吾々の事業をば『試驗氣球』として報導をしやう。

S-ro de Beaufront neniam ne sole ion skribis, sed eĉ neniam **faris al** mi ian malgrandan **aludon** pri tio. (OV 451/-8) ドボーフロン氏は嘗て何等その事に就て私に手紙を書き寄こしたことがないのみならず、一寸でも匂はせた事すらないのです。

Mi **faras** nur la **rimarkon**, ke sinjoro Craggs eble trovis, ke li faras ĝin al si tro

facila. (BV 16/7) 私はクラッグ氏がこれでは自らスラスラとやつてのけすぎるわいと云ふことがわかつたらうと申し上げるだけに止めます。

〔註〕 Rimarki (物事がかくあるのを)認める、(認めてかくの如しと)思ふ、(それを認めて口に出してかくかくであると)云ふ。Rimarkigi (人をしてそれを)認めしめる、(それを人に認めしめるためかくかくであると) 云ふ、(そうだと人をして認めしめる、即ち)注意を與へる。即ち rimarki も rimarkigi も共に同じ邦語の『云ふ』に當ることとなる。

Rimarko (1) 認めること, (2)=rimarkigo (認めしむるための) 注意、註記、註。

Al sia ordono la imperiestro poste **faris rimarkon,** ke virinoj estas liberaj de tia donado de honoro. (FK 68/23). 皇帝は此の勅令に婦人は此の禮式をするに及ばずと云ふ但し書をつけられた。

Ĉu vi ne **faros** ian **rimarkigon pri** la aferoj de la poŝta administrado? (Rz 60/10)· 遞信事務に關しまして何か御氣付の點(御注意)は御座りませぬか (=ĉu vi ne havos ion por nin rimarkigi=ion igi nin rimarki?)

Kaj tra la tuta lando oni **faris proklamon al** ĉiu. (FIII 24/20) 全國におふれが出た。

Se mi ne eraras, vi faras deklaracion pri mia filino? (Rz 76/20) あなた樣のなさつた(愛の)御告白は娘のことではないのでございますまいか (若し私の考へか誤でないならば……なのでせう)。

〔註〕 deklari 公言する、(人前でで公に) 告白する、宣言する。

Kiakaŭze vi **faras al** vi tian **komentarion**? (Rn 61/2) 何だつてそんな御託を並べるのだ (自分の云つた事に註釋をつけるのか)

Se vi trarigardos ĉiujn **kritikojn,** kiuj estis **faritaj** kontraŭ Esperanto vi trovos, ke la grandega plimulto el tiuj kritikoj estas simple personaj kapricoj. (OV 398/1) エスペラントに反對してなされたる批判を通覽されゝばその大部分は單に個人的な氣まぐれに過ぎぬことがわからう。

La publiko ridas kaj ridegas kaj eĉ por unu minuto n **faras al** si **demandon,** ĉu ekzistas eĉ guto da senco kaj logiko en ĉiuj tiuj ĉi „spritaj" mokoj. (OV 276/-9) 世間は笑つて笑ひ拔く、そして此の『きのきいた』嘲罵の中に一滴たりとも意味や論理がありやなしやを一寸でもかへりみやう(自らに問はう)ともしないのである。(*ank. vd.:* IT 21/-2, 104/-2; OV 366/-7)

Ŝi **faris al** sia lernantino kelkajn **demandojn**. (M 48/28; *ank. vd:* M 47/17) 生徒に質問を二三試みた。

Kaj kiel bele ŝi lin forregalis, kiam ĉiun tagon li **faradis al** ŝi ŝian **proponon**. (Rt 102/-10) 毎日の樣に云ひ寄るやつをいやどうも美事に肘鐵砲を喰はしてゐたこと。

Se iu volas **fari** simple konsilajn **proponojn,** li povas prezenti siajn proponojn al la estroj. (OV 404/-1) 單に勸告を出したい人があればその案を幹部に提出してよろしい。

Por ŝi mi **faris** (=prezentis) **al** vi **peton**. (M 97; *ank. vd:* M 46/-8; 97/14) その婦人のために御願ひを申しあげたのです。

〔比較〕 Mi havas peton al vi. 御願の筋がある。

Poste li **faris al** ŝi la **edziĝopeton,** kaj ŝi tuj diris „jes". (FI 128/9) 彼は彼女に結婚の申込みをしたが彼女はすぐ『あい』と云ふ返事。

Nun li **faris** tian **ĵuron,** ke frosto ekkuris sub miaj haŭtoj. (Rt 60/12) 身の毛もよだつ様な事を彼はやると云つてゐる(そんな誓を立てた)。

Tiel do vi plenumas la ŝuldojn de la **ĵuro,** kiun vi **faris al** mi publike. (GD 26/4) お前が公に立てた誓(夫婦の誓)に對する義務の果し方はそんな事なのか。

Mi ne **faris al** vi la **ĵuron** de la edziniĝo profunde. (GD 26/6) あなたへの夫婦の誓は深くはないのです(いやいや嫁に來たのです)。

La reĝan ordonon plenumu, pro la **ĵuro farita** antaŭ Dio. (Pr 18/4) 王の命令は誓つて(神の前で立てた誓ひにかけて)遂行せよ。

Li **faris** grandan **veton** pro via kapo. (H 161/20) 汝の首をかけて一とはり大きくはつてゐる。(*ank. vd:* H140/13; 141/13)

Estas tute egale, ĉu **fari** unu **pekon** aŭ du. (FK 64/5) 罪を一つ犯さうと二つ犯さうと同じことだ。

Fari	**decidon**=decidi	**diferencigon** } =diferencigi	**juĝon**=juĝi
	ŝanĝon=ŝanĝi	**diferencon** }	**justecon**=justigi
	plibonigon=plibonigi	**apartigon**=apartigi	**pekoliberigon**=pekoliberigi

Tiam ni povas **fari** definitivajn **decidojn**. (OV 367/10) その時になれば確定的な決定をすることが出來ることになりませう。

En peza nubo **faras** Jupitero **decidojn**. (IT 91/2) 重疊たる雲中に在まして主神ユピテルは決裁をし給ふのであります。

La komitato **faros** en ĝi tiujn **ŝanĝojn,** kiujn ĝi trovos necesaj. (OV 397/10; *ank. vd:* OV 309/19; 321/19; 321/18; 397/18, 26, 31; 399/5) 委員會はその必要と認むる變更を之に加へることとなる。

Sed ili pensas, ke se ni **faros** tiujn **plibonigojn,** kiujn ĉiu el ili proponas, nia afero iros multe pli bone. (OV 382/13; *ank. vd:* OV 309/26) 彼等は自分達が申出た改良を採用しさへしたら吾人の仕事は遙にうまく行くのだと思つてゐるのだ。

La servistino raportis, ke ia homo deziras paroli kun mi. Servanto **faras** certajn **diferencigojn inter** „homo", „sinjoro" kaj „persono". (FK 108/6) 下女が誰かお目にかゝりたい人が來たと取次いで來た。召使と云ふものは『人』、『お方』、『お方樣』の三者を使ひ分けをするものだ。〔註〕persono(えらい、一かどの)人物、お方(樣)。

La slavaj lingvoj severe **faras diferencon inter** „sia" kaj „ĝia". (LR 52/18) スラヴ語は sia と ĝia とを嚴格に使ひ分け(區別)をする。

Rimarko: La perifraza dirmaniero „fari diferencigon" (=diferencigi) estus pli longika, ol „fari diferencon" (=fari iujn diferencaj), sed pro simpleco ĉi tiu lasta frazero estas ankaŭ ofte uzata. Same kun „fari rimarkigon" kaj „fari rimarkon". (*Ank. vd:* LR 44/22)

Por **fari diferencon inter** la malpuraĵo kaj puraĵo kaj inter la bestoj, kiujn oni povas manĝi, kaj la bestoj, kiujn oni ne devas manĝi, ... (Lv 9-47; *ank. vd:* Lv 20-25) 清淨なるものと汚穢なるもの、食べてよい獸と食べてはならぬ獸とを區別するために……。

Tial, por ne **fari** maljustan **apartigon** inter eminentaj kaj ne-eminentaj, mi citos neniun apartan nomon. (OV 408/22) えらい人とえらくない人との間に不正な差別をつけぬ

ために私は誰も取りあげて名は引用いたしませぬ。(*ank. vd:* El 8-19; 9-4)

Interna tribunalo, kiun vi neniam povos subaĉeti per skeptika saĝumado, tiam vekiĝos kaj **faros juĝon kontraŭ** vi. (Rt 129/22) お前さんが似而非理屈をこねてだますことの出來ぬ心の中の法廷はその時になると呼び醒まされてお前さんに對して裁きをすることぢやろう。

Ĉar ne baldaŭ estos **farata juĝo kontraŭ** malbonaj faroj, tial plene kuraĝas la koro de homidoj fari malbonon. (Pr 18/-7) 悪業に對して裁のなさるゝのは速かでないが故に人の子だちの心はいゝ氣になつて悪をなすのである。(*ank. vd.* El 12-12)

Se ĝi estus kampulino, vi estus nun tute libera **fari al** vi **justecon** per bona porcio da bastonbatoj. (GD 9/8) (相手が)田舎女ならばしこたま棒で打ちのめして敵打ちをしてもかまひはしないのだが。

Kaj la kapron li starigu viva antaŭ la Eternulo, por **fari** super ĝi **pekoliberigon kaj** forsendu ĝin al Azazel en la dezerton. (LV 16-10) 山羊を生きたまゝエホバの前に立たしめその山羊に贖罪のお拂ひを行ひ曠野地方へ送つてアザゼルに届けなさい。

私の順序：A F Esp. G R

KAWASAKI-N.

Esp. の高等語學的研究に役に立つのわフランス語(以下 F とする)のほうが大きいか，ドイツ語 (G) わどれくらいの程度まで入用か，ロシヤ語 (R) を知つたらどんな場合に役にたつか？「F も G も R もみんないります」とゆう答がもつとも簡單で正しい。だがその役にたつ場合わちがう。私の經驗を述べてみる。個人にあらわれた日本 Esp. 研究史と思つてあまりに個人的なこの話を讀んでください。

私わ中學で英語 (A) を學んだ。上級になつてから，自分で講義錄をとりよせて F の勉强を始めた。Esp. をやり始めたのわ早稻田にはいつてからで，G をまだやり始めなりうちに Esp. をやつた。Esp. にわ G. の單語わわずかしかない。大部分わラテン系だから，F をちよつとかじつていた私にわ voli, povi. ĉevalo, ŝanĝi, ĉe などわすぐわかり，冠詞の la や bela, bona などがあるのわ當然だと思つた。infinitivo が一定の語尾であらわされていること，akcento が定まつたところにあるのわちつとも不自然と感じなかつた。tago とか jaro とか，bedaŭri とか，nur, nun なんてのわ G として覺えるより，Esp. として覺えたのが先だつた。Esp. の文法の參考書にわフランスからでたものが多かつた。これわいわゆる 20 世紀初頭から大戰までのフランス時代のためで，Aymonier の文法，Grosjean-Maupin の辭書など私にわありがたく，Esp.-Esp. 辭典の Boirac や，Verax にすら，F だけ添えてあるのを私わ利用することができた。Couturat, Histoire de la langue universelle の大著を學會の水曜日例會で眺めていた他の學生が「讀みたいが F を知らんので……」とゆうのを聞いて私はほほえんだ，ほほえんだにわ理由がある。日本でわ A と G が萬能だ。F なんて知らないのを自慢にしていた人があつたくらいの時世であつた。私わ中學時代からそんなことに反感をもつていたから，普通の人と反對に G よりも F を先にやつたのだ。それが Esp. をやつてみると，F が斷然役にたつ。「それみたことか」とほほえんだのである。ところで G に參考書がないわけでない。ことに戰後わすぐれたものがでている。Lippmann, Sprachliche Gutachten を買うことわ買つたが，讀めないのが殘

念だつた。「G を早くやりたい，G がすこし讀めるようになつたら眞先に Lippmann を讀もう」と私わ思つた。Lippmann, Wüster, Christaller, Bennemann 數多の良い著述を利用しえられるようになつてから私の研究の範圍も廣くなつた。そのつぎにやりたいと思つたのわ R だ。小坂さんわいつもなにかとゆうと R をひつぱりだす，Esp. にわ R そのままの單語もあれば，「ここわ R の文法をそのまゝうけついでいるのだ」なんてゆう人もあり，「R をやつたら，Esp. の文章がうまくなる」なんていいふらした日本の大家もあつた。R わ Z. の母語である。Esp. わ最初 Rusujo にのみ限られていた。R 式考へかたがどこまで Esp. に影響したかを考えてみることも Esp. 研究の一つの項目であらねばならない。R をやつてから，いままで全然手をつけようとしなかつた Esp. 發達史をかじりかけることができるようになつた。「F わヨーロツパ語の文法」だといわれているほどありがたがつている人が多いごとく，F がヨーロツパに第 1 の勢力を有することわあきらかな事實であり，ラテン系を多く要素とする Esp. がこの F より多くのものを學ばねばならないことわ申すまでもない。そして Esp. 運動の歴史わこれを實行した。ロシヤ，ドイツなどの田舎よりヨーロツパの首府パリに入るに及んで，Esp. わ洗練され社會にでられるようになつた。また比較言語學の第一人者 Meillet 教授がゆうごとく「フランス語の文語わ delikataj esprimoj のもつとも發達した言語で，外國人わ容易に近ずけない」(Les Langues dans l'Europe Nouvelle) であるならば，perfekteco にも第一たらんとするわが Esp. も大いに F を參考にして F を追い越さなければならない。だが Esp. における R の要素，G の要素を忘れてわいけない。Z. 自身わ F わ下手であつたし，F を利用しての著述わあまりない。譯本も短い Georgo Dandin だけだが，G から Ifigenio, Rabistoj, Rabeno de Baĥaraĥ, それに Batalo de l' Vivo も Hamleto も A からの直接譯でなく G|譯からであるし，大部の Andersen の Fabeloj も G 譯からだ。Z. の著作を研究するうえにこれらの G の原本の研究をもやつておかねばならない。それらと Esp. の關係を調べねばならない。19 世紀にあつた Esp. の辭書わ Universala Vortaro のでるまでわ 1889 の Plena Vortaro RE と 1889 の Mega Vortaro EG が標準のものであつたし，Z. も大きな Fundamenta verko になる GE 辭典を作りかけたこともあるくらいである、20 世紀の初頭になつても Z. と他の人と共著またわ校閲の GE 辭典，EG 辭典が Universala Vortaro の suplemento として權威のあつたものである。Z. が G を得意とした結果ラテン系語根でも F での意味よりも G, R 中にはいつて生じた意味を Esp. の語根がとつたことがかなりある。これわ相當注意すべきことである。Kunmetado についてわどの語よりもまず G を調べてみなければならない。

以上わ私の歴史を中心としたものに過ぎぬ。文法辭書の一々の項目にあたつて具體的に詳しく論ずることと，他の言語例えば「Esp. わフランス語よりイタリー語に似ています」とか「いやスペイン語のほうに近いです」とか日本人でもよくゆうが，それがはたしてどんな意味を有するとかゆうことなど，他の機會にゆづる。　　(17 febr. 1936 稿，9 feb. 1937 訂)

懸賞論文受付締切：3 月 5 日 (本誌前月號 27 頁參照)……………エスペラント運動後援會

La Trombo

(2)

Tacuo Taguĉi,
Imperia Mara Observatorio, Kobe.

II. La Strukturo de la Trombo.

Antaŭ ĉio mi preferas doni la difinon de la termino "trombo," ĉar la termino estas uzita tro arbitre de eĉ sciencistoj por nomi diversajn trombsimilajn fenomenojn: Tornado aŭ *Whirlwind* en angla lingvo, *Windhose* aŭ *Trombe* en germana, ktp.

Mi difinas ĉi tie: la trombo nepre havas 1) la funelan nubon kaj 2) kirloventan fenomenon kaj 3) okazas surmare (surakve).

Mi kredas ke tiuj karakterizaĵoj almenaŭ bone konformas al la fundamento de japana nomo "*tacu-maki.*"

A) La aspekto de la tromb . (Hurd, W. E. M. W. R. Vol. 56. 1928)

a) Ŝimultanaj nombroj: Simultanaj 2–10 tromboj estas multofte observitaj kaj 15–20 tromboj, ofte, sed pli ol 20 tromboj estas tre malofte. Brita ŝipo "Earnmoor" observis 20 simultanajn trombojn. (Talman, C.F.)

b) La funela nubo: La funela nubo pendis plejofte el kimlusnimbuso, (Lexique Meteorologique. Paris. 1926–1929) kimluso kaj stratuso, ofte, dum malplej ofte el stratus-kimluso.

c) Alteco de la trombo: Normala trombo havas la funelan nubon 1000∼2000 futojn altan. La plej alta trombo, okazinta 16, Majo, 1898, havis 5018 futojn.

ĉ) Abnorma formo de la funela nubo: (Talman, C.F.). En Maroko, 18, Decembro, 1917, tre mallarĝa funela nubo okazis. Ĝi havis la altecon de 1050 futoj sed la diametron de nur 3 futoj.

Kontraŭe, tre larĝa trombo estas observita en 14, Novembro, 1914. Ĝi havis la altecon de nur 100 futoj kaj la larĝecon de 700 futoj.

d) La vojaĝa rapideco: Ĝenerale trombo vojaĝas 15∼20 mejlojn por horo.

e) La viva tempodaŭro: La trombo nur vivas dum 15 minutoj en meznombro. Estis escepto: la trombo observita en Atlantiko vivis dum 45 minutoj. (Talman, C.F.)

B) Interna strukturo de la trombo.

Bedaŭrinde ni ne sukcesis ĝis hodiaŭ akiri abunde la materialon pri la interna strukturo, ĉar la okazoj, ke ŝipo rigardis la trombon de proksime aŭ travojaĝis la internon de la trombo, estis tre maloftaj kaj samtempe en la okazoj estis tro danĝere por la ŝipoj. Kelkaj konoj pri la strukturo de la trombo estas, do multparte analoge konkluditaj el la observadoj de tornado, kiu havas tre similan aspekton al la trombo kaj okazas multofte en amerika kontinento.

a) Horizontala distribuo de la vento.

Ĝenerale oni supozas ke certe ekzistas interne de la trombo la ekstrema kirloventego: S-ro Milham, W. I. (Meteorology. New York. 1918) taksis la ventrapidecon je 500 mejloj por horo kaj S-ro Loomis, E. (Talman, C.F.) kalkulis tion je 682 mejloj por horo. S-ro Ferrel, W. (A popular treatise on the Winds. New York. 1904) supozis pri la distribuo de la ventrapideco jenan rilaton:

$$V=\frac{c}{r}$$

kie V=ĝira* (aŭ kirla) rapideco rilate al tera sufaco,

r=distanco el la centro de la vortico,

c=la konstanto.

do, la plej granda rapideco okazas ĉe la centro, li konkludis. Sed, antaŭlonge S-ro Cook informis ke li vidis flugantan birdon interne de la trombo 17, Majo, 1763. (Nature. vol. 28. 1881-82) kaj alia malnova pilotlibro (*Gufu-ŝinŭa.* 1857)** subtenis la saman ideon; ĉe la centro ekzistas sufiĉe kvieta parto.

Kvankam ni jam sciis la fakton ke interne de la tajfuno, la tropika ciklono, ofte estas kvieta regiono nomita "*okulo de tajfuno,*" sed ankoraŭ ni iom hezitas kredi la certan ekzistadon de la sama okulo en la trombo. Ni devas ankaŭ rigardi la raporton de la ŝipo "Santiago" travojaĝinta la trombon. En la raporto oni klare neis la ekziston de la kvieta parto en la centro. (Allingham, W. A. Manual of marine meteorology. London. 1917)

Pri la fludirekto de la vento, S-ro Milham insistis ke ĝi kirlas ĉiam je la direkto kontraŭa al la movo de horloĝmontriloj, sed S-ro Scott, R. H. (Elementary Meteorology. London. 1907) uzis la vorton "multokaze" anstataŭ "ĉiam."

S-ro Bucham, A. (Handbook of Meteorology. Edingurgh. 1868) pensis ke la direkto dekstruma aŭ maldekstruma tute dependas de la tiama direkto de la ĉefa vento.

La fakto, ke la trombo havas ĝenerale la maldekstruman direkton, havas interrilaton kun la tera rotacio, oni kredas.

Laŭ la informo de S-roj Marshall kaj Brown (Mar. Obs. Vol. 8. 1931) la trombo turniĝis dekstrume ĉe la komenco, sed poste, ĝi turniĝis kontraŭe. Brita ŝipo "Caston" observis trombetojn ĉirkaŭe de la ĉefa trombo en Majo, 1920. Tiuj trombetoj rotaciis ĉirkaŭ la ĉefa kiel la satelito rotacias ĉirkaŭ la planedo. (Talman, C. F.)

Sube mi montros la skemon supozitan koncerne al la ventodirekto.


1)


2)

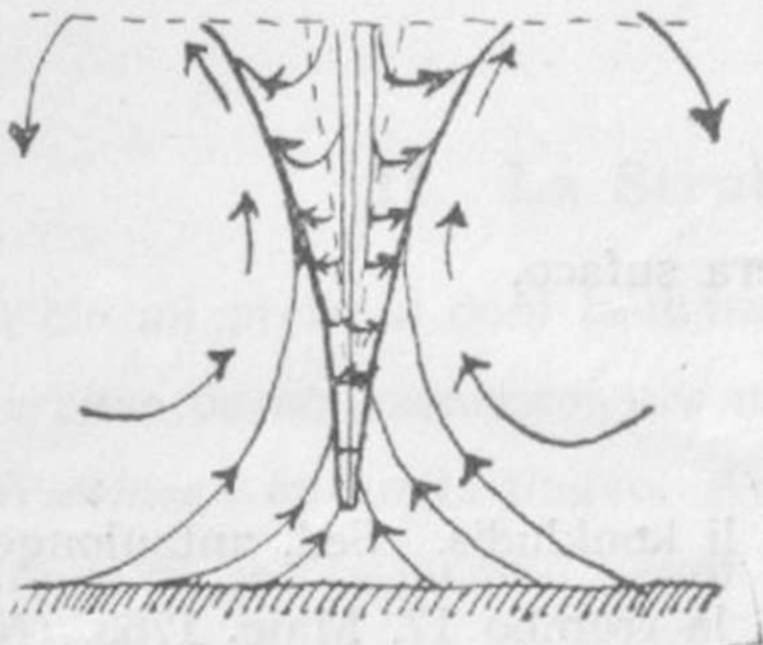
1) Ĝenerala aerfluado en la trombo.

2) Supozebla aerfluado en la centro.

Krauss, J. kaj Meldau, H. (Wetter- und Meereskunde für Seefahrer, Berlin. 1931)

b) Vertikala distribuo de la vento.

En la ventorapideco aŭ ventodirekto, la trombo havas tre komplikan strukturon. Unue mi prezentos tipajn skemojn pri la fludirekto.



(Krauss, J. kaj Meldau, H.)

Due, pri la ventorapideco mi montros unu ekzemplon pri Tornado observitan de S-ro Bigelow, F. H. (M. W. R. Vol. 31. 1901. Q. J. R. M. S. Vol. 28. 1902.) en Cottage City, Usono, 19. Aŭgusto. 1896.

Alteco super marnivelo (futoj)	Diametro de tubo (futoj)	Radia rapido eksteren (mejloj)	Rotacia rapido (meiloj)	Vertikala rapido supren (meiloj)
4200	—	—	—	—
4193	3402	7.0	14.1	0.04
3901	506	1.0	94.4	2.54
3599	400	0.6	119.5	3.90
3301	290	0.6	164.0	7.40
2999	250	0.5	189.0	9.90
2398	204	0.4	233.0	14.90
1802	178	0.4	268.0	19.80
1499	168	0.3	284.0	22.20
1201	158	0.3	300.0	24.70
601	144	0.3	328.0	29.60
479	144	0.3	333.0	29.70
0	134	0.3	354.0	34.60

c) Pri la distribuo de la atmosfera premo en la trombo, S-ro Wegener, A. (Wind- und Wasserhosen in Europa. Braunschweig. 1917) kaj S-ro Letzmann, J. (Met. Zeit. Bd. 47. 1930) traktis.

* ĝiro＝獨樂狀旋回,(新撰エス和辭典補遺にあり)

** 颶風新話

Pri la "Originala Verkaro"

W. Bailey. LK-ano

La Originala Verkaro enhavas grandan amason da Zamenhofa materialo, kaj sekve ĝi estas tre valora por ĉiu Esperantisto, kiu volas fari diligentan esploron en la modela stilo de nia lingvo; granda parto de tiu materialo ne estas oportune havebla aliloke; tiom pli bedaŭrinde estas, ke la volumo ne estas precize konforma al la tekstoj, kiujn ĝi pretendas prezenti. La plimulto el la diferencoj rezultas de eraroj en kopiado aŭ en kompostado, sed krom tio troviĝas arbitraj ŝanĝoj, faritaj de la redaktoro.

Supozeble ĉiu rondirantano posedas ekzempleron de la Originala Verkaro; kaj por doni al ĉiu posedanto okazon fari en sia ekzemplero ĝustigojn, jen mi faras serion da rimarkoj.

En tre granda nombro da lokoj tra la tuta libro la redaktoro faris interpunkciajn ŝanĝojn, ne konformajn al la Zamenhofa sistemo. Unu el la plej facile rimarkeblaj estas la enmeto de komo antaŭ infinitivo (ekzemple antaŭ *servi* ĉe 91/15).

La stilo uzata de la redaktoro multe diferencas de la modela stilo de Zamenhof, sed mi pritraktas precipe la Zamenhofan materialon, ĉar kompreneble tio havas pli da intereso kaj utileco.

La numerojn de la linioj mi donas sur la bazo de plena paĝo, ekzemple p. 19. Uzante paperan strion kun streketo por ĉiu linio kaj kun numeroj kontraŭ la streketoj (5, 10, 15 k. c.) oni povas ŝpari tempon ĉe la kalkulado.

15/38. *1894* anst. *1890*
18/11. *tiun* anst. *tiu*
18/27. forigu komon antaŭ *kaj*
19/ 8. komo post *publiko*
20/18 *longatempaj* (kp. F. K. 245/2)
21/11. *ĉiu* (for everybody) anst. *ĉiuj* (ridinda eraro; la sekvantaj vortoj en multenombro erarigis la redaktoron; kp. F. K. 245/36)
12. *kun ia* antst. *kun la* (F. K. 246/1)
22/11. *kiu* anst. *kiuj*
20. komo post *kajero*
25. forigu komon
39. *kaj plej certe*
40. ² post *Kiam* kaj ¹ post *tiam*
23/1, 2, 7, 8. ⁴ post *tiam;* noto malsupre: ⁴ *arkaika formo: tian*
7. *tuta* ne estas eraro; kp. 161/37 kaj F. K. 291/29.
11. *dependos*
18. *neŝanceleblan; maturiĝus kaj fortiĝus kaj ricevus*
25. ⁵ post *kiam;* noto malsupre: ⁵ *arkaika formo: kian*
34. forigu komon post *laboro*
38. kiujn *ili* sendis; (la Germana sistemo ofte kondukas al tiaj eraroj; kelkaj troviĝas en F. K.)
24/10. ² post *kiam;* noto malsupre: ² *arkaika formo: kian.*
42. *mi ĝis hodiaŭ aŭdis aŭ legis, en*
26/19. *je ia afero.*
20. " post *ridinda* anst. post *nenio* en l. 21
27/4, 38. ¹ post *kiam;* noto malsupre: ¹ *arkaika formo: kian*
6, 22, 36, 43. ² post *tiam;* noto malsupre: ² *arkaika formo: tian*
28/10. *unu fojo*
17. ¹ post *neniam;* noto malsupre: ¹ *arkaika formo: nenian.*
24. ² post *tiam;* noto malsupre:

² *arkaika formo: lian*
29/31. "teksto.: ilian" kompreneble! Z. ne obeis regulojn, arbitre faritajn de aliaj personoj. Komo post *lingvo*
41. redaktora noto diras "teksto: kompotentaj", tamen la fotografe produktita reeldono havas *kompetentaj*, kiel ankaŭ originala ekzemplero, kiun mi antaŭ longa tempo prunte ricevis de d-ro J. C. O'Connor, kaj karbona kopio, kiun donis al mi s-ro J. M. Warden.
30/ 9. *kiel*
23. la du kopioj supre nomitaj havas *venis.*
33. forigu komon post *publiko*
31/10. *donos*
16. *kaj...promeson."*
18. *teorie*
20. *praktike*
30. *se la...nerekonebleco*
32. *l'*
34. *teksto: malprudenta;* certe; kial ne?
35. *teksto: ilian;* certe; kial ne?
37. la du kopioj nomitaj havas *perdita*
40. *lau...elektis*
42. *liu; en ĉiu okazo*
32/ 6. *aŭtoro*
29. *kaj „ia|n" etc.*
34. *esti* anst. *estis*
36, 37, 38. la signetoj devus esti vertikalaj, ne oblikvaj.
42. *aŭtore*
33/11. *la* anst. *ia*
15. *unua* anst. *unua*
10. la du kopioj nomitaj havas *tuta*
33/16. forigu punkton post *lernolibro*
18. *persona*
20. *ĉiu el*
26. *plej granda parto*
28. ĝis 31. *Se ia...plaĉo*
31. "*teksto: lia*"; certe; kial ne?
32. komo antaŭ *ne.*
35. *plejmulto*
36. ĝis 39. *Ĉiu...bona*
40. komo post *persone*
34/ 2. komo post *signifon*
6. *kiujn* anst. *kiun*
35/11. komo antaŭ *kaj*
33. *plenan vortaron;* arkaika formo: *ĉian*
34. "teksto: *ilia*"; certe; kial ne? *mi*
35. *ĉion*
40. "teksto: permesita"; kial ne?
41. la du nomitaj kopioj havas *ŝajne*
36/1, 2. *tute...klare*
7 ĝis 9. *apud..ekzistas*
13. *unu*
16-17. *Sed...francan*
16. "teksto: p stulata"; certe; kial ne?
23. *devus*
28. *:* anst. *;*
31. forigu komon
32. *persone*
33. "teksto: oportuna"; certe; kial ne?
35. komo post *lingvo; deprenas* anst *deponas*
39. *unu*
40. forigu komon antaŭ *ke*
42. *necesa*
37/11. *mi*
12. *povos*, (ne *povas*)
16. *sciu unu pri alia*
21. komo post *kiuj*
41. *personan*
38/ 1. forigu komon post *kiuj*
9. *tiaj*
10. *efektivaj*
15. *tiuj ĉi*
27. *per* anst. por
29. *malutilon*
31. *utilon*
33. *al la*
34. *literaturon*
35. *faktoj; signoj de vivo*
37. *en*

39/12. *pli-malpli*
18. *mem*
26. arkaika formo: *ekzemplaron*
32 ĝis 35. *La...nomaroj*
39. kial stranga? akuzativo post substantivo troviĝas almenaŭ dekkvarloke en la Z. verkoj. (D-ro D. ne enmetis rimarkon pri 95/28.) Vidu ankaŭ 65/21; 501/14; F. K. 198/29; 199/13; 329/7
42. *vortoj, ĉar*
40/17. *atendemaj*
31. *fortoj. Ĉiu*
43/20. *Por ke lingvo*
44/32. *k. t. p.* (kaj tiel same en ĉiu loko, kie troviĝas *ktp.*)
35. *modelajn, devigajn* (tamen tiuj eraroj troviĝas en la originalo; d-ro D. ne estas kulpa en tio)
47/32. *esprimita*
48/ 9. *respondanta*
40. *Jezo*
41. *k. t. p.*
49/24. vidu 245/20.
50/ 1. *kiel eble plej zorge*
36. forigu komon post *Tamen*
51/ 9. *okazoj*
53/22. "teksto: dezirata"; certe; kial ne?
54/34. *tial* anst. *tiel*
56/38. *k. t. p.*
57/40. Mi ne kopiis por li tiun numeron, sed sendis al li kopion, kiun mi jam antaŭe faris, antaŭ ol mi aĉetis de s-ro H. T. Bailey en Londono la presitan kolekton. La kopio havas multe da substrekoj, kiujn mi faris por mia persona uzado; bedaŭrinde la redaktoro supozis, ke ili apartenas al la originalo. Sekve la paĝoj 73 ĝis 82 havas grandan kvanton da neĝusta presaĵo. Jen mi donas la bezonan ĝustigon:
73/14. *danke tiun ĉi mankon*
22. *realpeli*
37. *mia*
40. *ni* (anst. *mi*)
42. " " "
43. *mi*
74. la unua paragrafo sen disa presado.
/32. *specialan*
40, 42. *institucio*
75/ 1. "
8. *funkciadon*
25. *institucio*
31. *ilian*
35. *kiom fojojn*
40. *kontrolo; 41. kontroli*
76/ 1. *fiktivaj*
9. *primitivaj*
16. *grandoj*
26. *organizacio*
37. *fojojn*
43. *ĝiaj* duloke
44. *tuta; danke la*
77/ 1. *leĝojn*
78/29. *lia* (la noto ³ estas eraro)
79/1, 6. *skeptikuloj*
13. *akurate*
22. *paralela*
27. *paralele*
32. *blanketon*
41. *siatempe*
80/ 4. *pasiva; aktiva*
22. *kontroli*
23, 38. *korekti*
28. *produktiva*
33. *fiaskon; kompromiti*
81/39. *speciale*
82/ 3. *Speciale*

(La ceterajn ĝustigojn por ĉi tiuj paĝoj mi donos ĝustaloke)

58/20. forigu komon; noto ² *Nun* (sendube intenca)
28. *multaj amikoj en multaj lokoj*
59/35. *granda parto de* (*parto* mankas ankaŭ en la originalo)
20. teksto: *mia*, kredeble erara, ĉar

en la linio 18 staras *Ni.* noto [2]: legu "*sed*" anst. "*kvankam*"; *kvankam ... sed* estas ofte uzita de Z.

60/14. *plaĉos*
12. "teksto: iliajn"; certe; kial ne?
61/30. streko antaŭ *kaj*
31. *deciditaj*
32. forigu komon
62/ 6. *devas*
11. forigu komon post *kutimon*
17. „ streketon
34. *Petersburg*
63/ 4. "teksto: ilian"; certe, kial ne?
8. „ *ilian*, ne *iliajn*
21. forigu komon
37. *dirita*
65/25. forigu komon post *sufiĉe*
26. „ „ „ *homan*
42. *V. 126* anst. *V. 127*
66/ 2. *povos*
17. komo antaŭ *kaj*
18. *raportoj*
35. *publikigata*
67/ 4. forigu komon antaŭ *ĉiu*
69/21, 29. Leopoldo
29. forigu komon antaŭ *sinjoro*
35. *Volapükisto*
36. *energio kaj tre multe*
37, 38. forigu la enkrampajn vortojn
39. *Valapüka; sentis* anst. *sendis.*
40. *estus*
44. *Sed ricevinte antaŭ 2 jaroj okaze la unuan libron*
70/ 2. *54*
3. forigu komon
5, 14, 16. *tutmonda*
7. *al* anst. *pri*; forigu *tio*
8. *la unu*
10. komo post *timis*; *povas*
11. *devas*
12. forigu komon antaŭ *la*; *unu* anst. *unua*; *la plej* anst. *tre*
15, 17. „ *Internacia*"
16. *povas*; forigu *logike*
17. forigu *en*
19. *tempo facile povos esti bonigitaj*
20. „ *lingvo de l' mondo*"
21. komo antaŭ *aŭ*
23. *neebla*
24. forigu komon post *jam*
26. *8*
29. *Volapükistoj*; forigu komon.
38. *legadoj*
40. , anst. ;
71/ 1. *pli* „ *plu*
2. forigu komon
4. „ *l'*
6. *jam* anst. *plu*
8, 10. *ni* anst. *mi*
9. *legadoj*
12. *al ni antaŭ kelkaj monatoj*: „ *mi estas*
16. *batalado*
18. .'' ant. ''.
19. *uzi freŝan*
20. *la vintro*
21. *kaj frostoj*
22, 24. *povas*
27. Via

Sendube d-ro Dietterle prenis la tekston el represaĵo, multe ŝanĝita de s-ro de Beaufront. (Daŭrigo venos)

代理者 (substitute)	anstataŭanto
チーム (team)	teamo
主將(キャプテン)	ĉefo, gvidanto
勝　利	venko
賞　與	premio
メダル	medalo

2. 陸上競技

(Atletiko)

a. トラック競技

(Dromaj Konkuroj)

百　米	100-metra kuro [vetkuro]
二百米	200-metra kuro [〃]
マラソン	maratona kuro [〃]
五萬米ウォーク (walk)	50000-metra (vet)marŝo
八十米ハードル	80-metra hurdokuro
障害物競走	obstakla kuro
四百米リレー	400-metra stafeto
競技場	konkurejo, kurejo
トラック	dromo
ランニング・トラック	kurejo, kurdromo
シンダーパス (cinder-path)	cindra kurejo
インナー・コース	droma interno, interna dromo
アウトサイド・コース	droma ekstero, ekstera dromo
セパレート・コース	limdifinita kurejo
マーク (marks)	signoj
チョーク・ライン (chalk line)	kreta linio [streko]
アウター・エッヂ	ekstera eĝo

SPORTA TERMINARO

1. 一 般 用 語

(Ĝeneralaj Terminoj)

和（英）	エス
オリンピツク競技 (Olympic Games)	Olimpiaj Ludoj
國際オリンピツク委員會 (international Olympic Committee; IOC)	Internacia Olimpia Komitato
各國オリンピツク委員會 (National O. C.)	Nacia Olimpia Komitato
組織委員會	Organiza Komitato
聯盟	Federacio
一般規約	Ĝeneralaj Reguloj
アマチユアの定義	Difino de amatoro
審判者	juĝisto
資格を認定す	kvalifiki
資格なしと認定す	malkvalifiki
競技	konkuro
個人競走	individua konkuro
團體競走 (team competition)	teama konkuro
豫選 (heat)	antaŭa konkuro
準決勝戰 (semi-final)	antaŭlasta konkuro
決勝戰	lasta [又は fina] konkuro
競技參加者	konkuranto, partoprenanto

タイム	tempo
タイム・キーピング	tempokalkulo
ストツプ・ウオツチ	haltigebla horloĝo, haltohorloĝo, stophorloĝo
ジヤンプ (jump)	salto
マラソン・コース	maratona kurejo
ターン	(voj)turno
ターニング・ポスト	turnofosto
レフレツシユメント・コントロール	refreŝigejo
スタイル・オブ・ウオーキング	stilo de marŝo
フオール・ウオーキング	erara marŝo
リレー・レース	stafeto
リレー・テイーム	stafeta teamo
オーダー・オブ・ランニング	stafeta ordo
リレー・ランナー	stafetokuranto
フアースト・ランナー	unua kuranto
ラスト・ランナー	lasta kuranto
チエンヂ (更代)	ŝanĝo, alternado; transdono
バトン	bastono (stafeta)
フオールス・パツシング・オブ・バトン	erara transdono de bastono
ゾーン・ライン	alternejo, transdonejo
パツシング・ゾーン	transdona zono
ジヤンピング・イヴエント	salta konkuro, vetsalto
(走)高跳	altsalto (post alkuro)
ポール・ヴオールト	salto per stango
(走)巾跳	longsalto (post alkuro)
三段跳 (佛: triple saut)	triobla salto
トライアル	provo

インナー・エッヂ	interna eĝo
ホーム・ストレッチ	deira rekto
バック・ストレッチ	alvena rekto
カーヴ	kurbo
ラップ (lap)	rondo
追ひ越す	antaŭiĝi, superi
走　者	kuranto
短距離走者	malongdistanca kuranto
長距離走者	longdistanca kuranto
マラソン・ランナー	maraton(kur)isto
ハードラー	hurdokuristo
ウオーカー (walker)	(vet)marŝisto
スターター (starter)	startisto
スターターース・アシスタント	start(ist)a asistanto
タイムキーパー	kronometristo
レース	vetkuro, konkuro
スプリント (sprint)	kurego
デッド・ヒート (dead heat)	senrezulta vetkuro [konkuro]
スタート	starto, ekkuro
フォールス・スタート	misstarto
スターテイング・ステーション	startejo
スターテイング・ライン	starta linio
スターテイング・ショット	start(ig)a pafo
スターテイング・シグナル	start(ig)a signalo
スターテイング・ナンバー	starta numero
決勝點	celo, fino
決勝線	cela linio
フイニッシング・ポスト	cela fosto
テープ	cela rubando [fadeno]
決勝點での寫眞	foto de alveno

Lian idealan staton (Nirvanon) oni povas atingi per sindeteno aŭ kredo al absoluta dio Amido.

Post la morto de Ŝakamunio (477 a.K.) lia religio Budaismo* dum kelkaj jarcentoj disvastiĝis en Hindujo. Ĝi ankaŭ enkondukiĝis en Ĉinujon, Koreujon, Japanujon kaj Javon. Budaismo sin dividis en du partiojn.

{ Sinvekanta partio=kvieta memo . . . kiel ĵana sekto
{ Savesperanta partio= mova memo . . . kiel elizea sekto

En la mezepoko nova Bramanismo (nomata Hinduismo) levis sin ; ĉar Budaismo estis egalismo kaj tio postulas egalrajtecon eĉ en politiko.

En la 11-a jarcento Mahometanismo envenis en

---

* Pri Budaismo vi povas legi en esperantaj tradukoj jenaj:

Budao, verkita de L. Narasu, tradukita de T. Takeuĉi, en kiu vi vidas Budaismon lumitan per moderna lumo.

La Sukhavativjuho (阿彌陀經), sankta skribo en sanskrito, tradukita de K. Nohara.

La Samanta-Mukhaparivarto (普門品), sankta skribo, tradukita de K. Nohara.

La dek Bildoj de Bovpaŝtado, tradukita de K. Ŝibajama.

La Parabolo de la urbo magie farita (化城喩品), tradukita de K. Nohara.

La Psalmo de Ĝusta Kredo (眞宗正信偈), tradukita de D. Koono.

Nuntempe okcidenta filozofio estis enkondukita en Ĉinujon kaj Konfuciismo fariĝis iom arkaika.

B. Hinda Filozofio

Hinda popolo estas religia gento. En la primitiva tempo la hindoj adoris la naturon. Ĉiaj naturaj fenomenoj estis personaj dioj. Poste tiu politeismo ŝanĝiĝis en monoteismon. Tio estas nomata Bramanismo.

Kune kun fluado de l' tempo tie naskiĝis filozofio.

Upaniŝada filozofio estas klarigo de Bramanismo; ĝi speciale klarigas realecon.

Sankja filozofio lerte klarigas varion de fenomenoj. Vaiseska filozofio estas kompleta materiismo; ĝi alte taksas plezuron, speciale volupton.

Gotamo Ŝakamunio estas la plej granda filozofo kaj religiisto. Naskita nobelo, li studis ĉiujn filozofiojn de Bramanismo kaj planis ĝian reformadon.

Li predikis ke anoj de ĉiuj klasoj (kastoj) havas egalan rajton iri al Paradizo post la morto.

Li provis forigi dualismon de Bramanismo, kiu konsistis el dia memo kaj homa memo.

Li pensis ke la homa memo estas la fonto de ĉiuj fenomenoj.

{ kvieta memo=nenio, nulo.
{ mova memo=materio, fenomeno, mondo.

Hindujon. En la 17-a jarcento Kristanismo ankaŭ estis importita tien.

Sed neniu fama filozofio sin trovas en Hindujo.

C. Okcidenta Filozofio

1. Antikva epoko

Ĉina filozofio estas instrua, nobla, solena kaj politika. Hinda filozofio prefere estas fabla, satira, metafora kaj konsolema.

Okcidenta filozofio, kontraste al tiuj orientaj filozofioj, estas sinteza, analiza, delikata kaj scienca. Okcidenta filozofio povas marŝi paralele kun scienco. Ĝi estas tre preciza kaj ĝusta. Nuntempe penso de l' tuta mondo estas sub la influo de okcidenta filozofio.

Sed Kristanismo havas nenian gravan filozofian principon.

La grekoj estis sciencemaj, filozofaj kaj literaturamaj. Ilia filozofio komenciĝas je la sesa jarcento antaŭ Kristo.

Sokrato diris al erarigajn rezonistojn ke la universo havas unu celon kaj nia ekkono estas prava. La erarigrezonistojn grekoj nomis "sofistoj."

Demokrito estas aŭtoritata materiisto en greka filozofio. Li diris: "la homo estas unu peco de

materio; materio ne havas idealon nek celon; plezuro estas nur la sola celo.

Platono estas la unua ideisto. Li pensis ke ĉiuj fenomenoj estas nur ombroj de reala esto.

Aristotelo (kiu mortis 322 a.K.) estas la plej granda filozofo en Grekujo. Li donis sistemon al ĉiu scienco.

Li faris al la materiismo kaj ideismo harmonion.

Laŭ lia principo la universo sin dividas en du flankojn:

Universo	Formo (spirito)		=spirito, dio
	Substanco (materio)	Homo	=homa animo
		Animalo	=senta animo
		Planto	=kreska animo
		Mineralo	=senanima aĵo

Li kredis ke ĉiuj substancoj havas celon kaj animon, kaj ĉio estas sur la vojo al evoluo. En etiko li alte taksis mezecon, moderecon kaj harmonion.

Jesuo Kristo (mortis 31 p.K.) naskiĝis en Judujo. Li predikis ekziston kaj amon de Dio, pretendante ke li estas Savanto (Mesio). Fine li estis krucumita.

Kristanismo poste transiris al Romo kaj fariĝis la religio de l' imperio.

En Roma epoko filozofio estis predikata pleje laŭ Aristotelo.

Kristanismo, de origino, havas nenian filozofian principon. Dio, dia amo, anĝeloj kaj mesio estas nur intuicio.

Mezepoka filozofio estis klarigo de Kristanismo.

2. Moderna epoko

De post la dekkvina jarcento en Eŭropo disvolviĝis naturaj sciencoj kaj filozofio.

Emanuelo Kanto (germano, mortis 1804) estas la plej granda filozofo de l' mederna epoko.

Li pensis pri la pravecon de ekkono. Li diris ke ĉiuj fenomenoj estas formoj de intuicio. Tempo kaj spaco estas apriora formo de intuicio.

Ni povas ekkoni fenomenon sed ne realan estecon de "objekto mem." Li dividis la formojn de intuicio en 12 kategoriojn.

Intuicio { Apriora formo=Tempo, Spaco.
Aposteriora formo=Ĉiuj fenomenoj.

La plej grava verko de Kanto estas "Kritiko de Pura Racio."

Hegelo (germano, mortis 1831) estas ankaŭ granda filozofo.

Li staras sur la kampo de logika ideismo. Li pensis ke la universo rezultas el sinsekvo de logikaj disvolviĝoj de fenonmenoj — tezo, antitezo, sintezo. Logika disvolviĝo konsistas el kontrasto de ideoj. Unu alvokas alian.

Laŭ lia skemo:

esto ——→ neesto
↓
difinita esto
↓
fenomenoj

Lia logika pensado estas korekta, sed la procedo estas neklara.

Post Hegelo ni plu ne trovas grandan filozofon.

PAROLAS MEMBROJ

規定： 匿名のものは没とす。特に誌上匿名のものをのせる場合もあるが本名のものに優先權を與ふ

エス運動への希求

——オリムピックへの作戰——

中　田　太　郎

呱々の聲を揚げたばかりの者がエス運動を云々するのは烏許の沙汰ではあるが、エス語に關心を持つほどの者が其宣傳に對する考へをおろそかにすべきではない程の事は承知して居るのが已然のエスペランチストたる資格條件の一つである——と云ふよりは寧ろ主要條件であるのを思ふとき、一介の雛つ子と雖も默止しては居られない。會誌と云ふものを初めて見たその九月號で、大谷正一氏の一文は驚異敬嘆に値する金玉の文字であつた。氏の如きは洵に「天才は努力なり」の格言を其儘に現した人である。氏の如き精進の士によつてなさるゝ火を吐く烈々の語が如何に我等を鞭韃警導するかは蓋し有難き存在であり至寶とすべきである。

氏の說論の中には空虛な論理と云ふものがない。エス語の要値は趣味以上のものでなければならない。趣味は實用に卽して涌いて來るに相違ない。私共が之の小さい日本內地に於てすら南北一堂に方言の儘に發語するのに逢つたならば夫れこそ思ひ半ばに過ぐるものがあらう。國語統一の有難さで東西南北意思の疎通に何不自由を感じないのが太陽と空氣の有難さを意識しないのと同列であることは認識を新たにさせるべき大きな仕事である。

國際關係日に日に緊密の度を加へて來るにも不拘、外交家も科學者も藝術家も相倶に胸襟を開いて語り合ふ事の出來ない不自由さと夫れから來る無際の不利益と不幸は、考へてみても恐ろしくもあり殘念なことである。

エス語は正に人類幸福への太陽である。その燦光に浴するものには歡喜がある、一切の利便福祉が乗つて來る。之れに對する翼讃運動に携はる者の使命は眞に重大であり誠に意義深い世界文化史への一投石である。文化への進軍は老若男女學不學の別ちなく勇ましくも貴き聖戰である。そして我等エス鬪士の戰術は一も實用、二も實用。新聞紙全頁連頁の廣告による商品價値とは實質を異にする。然し現今では「エス太陽」に對して霧が深すぎる、密雲續きである。風を送らねばならぬ。雲の切れ目と霽れ間をより多くせねばならぬエス雰圍氣內の氣壓はエス慈光撒射の爲めには一切明朗である事を要する。要之

1. 諸種の廣告を質實に闊發に普編的に繼續する。
2. 講演、講習會等を諸所に開催する——看板が目に留つた丈けでも宣傳になる肥料にならなくても濕りにはなる（濕りがなければ作物は枯死する、濕りのいらない雜草がはびこる）
3. 名士を運動に從はせること、實力充分(エス語の)の鬪士の增成を目標にする
4. 委員、役員、幹部級の人達が、いつも發念當初の純眞の氣分でエス使徒たるの念を忘れずに精勵されること。
5. エス運動のためには一切の私情、　がゝりを棄てゝ結果に於て善しと認めた事へは協力邁進して其成果を收めることを忘れない。

更に申上げたいことは、來る四十年の衝動强き國際オリムピックに於て、我がエス語の驚異的實用價値を宣揚することは劃期的な成果を收め得るものと信じられるが、我が JEI に於て國際親善の實を擧げるために、招致案內に對し、彼方同種團體をして此方の存在と國際親善運動への實際的進出を一般に宣布させ、今日より便宜供與等に關する實際運動を周知せしめ置き文信を惜しまぬことである。同時に前記エス語鬪士の實力涵養には死力を以つて當るべきで、四年後には世界絕對優勢軍を充實して、オリムピツク招致の實に恥ぢない心掛を忘れたくないことである。私としては今日之以上言ふべき何物も持ち合せず甚だお恥かしいが、大谷正一氏の努力を終始の鏡としてエス世界に生きて行きたい第一步の希望を述べさせて戴いた。

〔學會事務部より〕

オリンピツクへのはたらきかけ目下着々すゝめてゐます。その中に追々よいおしらせをえられるかと存じます。

内外エス運動展望

IEL 會館

舊 UEA と袂別してロンドンで花々しく新しい活動を始めた Internacia Esperanto-Ligo は今度某氏の好意によりロンドンを西北にさる三十粁の Rickmansworth に一つの建物を寄贈され之を事務所とすることになつた。

去る 12 月 12 日午後ここで開所式が行はれ會頭 L. Bastien 氏も態々巴里から出掛けた。

IEL も新しく自分の家をもつことになつてここに firma bazo の下に祝福された第一歩を力づよお印した。IEL の adreso は Heronsgate, Rickmansworth, (Herts.) Anglujo である。

Tobias Sigel 老の死

アメリカデトロイト市に長くすまつてゐた D-ro Tobias Sigel 老は去る 11 月 23 日に死去された。享年 74 歳。博士は 1907 年にエスペランチストになり 1910 年のワシントンでの萬國大會に出席後熱心にエス語の宣傳につとめられた。

古い學會會員は本誌上に連載の小坂氏の滞米日記にこのジーゲル老の話が屢々出てきたことを記憶するであらう。

今夏の萬國エス大會

50週年を期して今夏ワルソーで開かれる萬國大會は着々その準備をすすめてゐる。

特に今年の大會は合言葉として "Esperanto en Lernejon!" をとりあげ各國で學校教育にエス語を必修科とする樣運動をするといふのである。

4 月 12 — 18 日

(本誌巻頭言をよめ!!)

エスペラント週間

に協力せよ!!!

「エスペラントを現代生活に」の國際會議

5 月 14—17 日

前號記載の上記國際會議のため材料御所持の方々は下記宛材料を御送り下さい。(前號記事御覧の上)。

Internacia Konferenco "Esperanto en la moderna vivo", 34, Rue de Chabrol, Paris 10e.

ブラジルのエス切手

昨秋のブラジルエス大會で記念切手が出たことは既に前號本欄で報じたがその寫眞が「エスペラント」誌 3 月號の表紙に出てゐる。中央に星があつてそのまはりに世界各國の旗(日章旗も入つてゐる)がならべてあつてその周りに NAŬA • BRAZILA • KONGRESO • DE • ESPERANTO • NOV • 1936 • RIO • DE • JANEIRO と書かれてゐる。

全國各地報道

投稿注意:
1. 日本文にて・なるべくハガキで・迅速に・簡單に。
2. 締切大體前月18日（18日以後到着のものものせることあり）。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ說明記入の事。寫眞は返送せず資料として保存す。

東京 **★學會監事堀眞道氏送別會**——學會監事又永らくT.E.K.の幹事として御盡力下さいました堀氏は今度突然遠く寒國旭川へ轉任される事になりましたので2月17日午後6時より本郷一丁目電停前森永で送別會を開催致しました。大井學氏を始め守隨、馬場、佐々城の諸氏等古い同志が出席し堀氏を圍み限りなき別れを惜しんだ。旭川は今夏第6回北海道大會の開催地であり同氏を迎えての北國エス運動に榮光あらん事を祈る。(H. K.)

★Fronto-Rondo——每回多數の新顔も見え仲々愉快である。每週火曜19-21時本鄕1丁目電停前森永賣店階上（責任者根本）。

★ロンド、ハルモニーア——大きな期待を以て練習を開始した私達の混聲合唱團 „Rondo Harmonia“ はその後每回愉快な合唱をつゞけてをります。それに現代日本音樂の作曲に專心されてる若きエスペランチスト小島和夫君がピアノ伴奏を引き受けて下さいましたので私達一同は思はぬ悦びに浸つてをります。

同志の紹介でne-esperantistoも數名參加され歌つてゐるうちにエス語の歌詩の美しさに魅せられエス語學習を始めてゐます。嬉しいことです。每回練習の時にエス語のparoloに親しめるやうな雰圍氣を作りエスペラントの恩惠を一人でも多くの人におわかちするやう皆で努力してます。

合唱の練習は和聲の基本練習とConconeを始めに30分程やりあと歌曲を混聲4部でやつてゐます。易しいものを皆で面白く氣持ちよく歌ひ合せるのをモツトーとしてゐます。

今の所メムバーは20人程です。尙入會は隨時出來ますから、いつでも女聲男聲を問はず御參加下さい。双手を擧げて歡迎します。

◇練習は每土曜18-20時で銀座5-3小野ピアノ店三階スタヂオです。

◇申込は: 東京市本所區平川橋5-3安井義雄方ロンド・ハルモニーア

◇會費は月額￥.50（前納）

★マルシャーダ、グルーポ——從來マルシャーダ、クンシードで知られてゐたが、會の公式名稱はマルシヤーダグルーポを用ふ。

12月15日丸の內鐵道クラブのザ祭に會員3名出席。12月19日を最後として學年試驗の爲4月迄目下kutima kunsidoなし。陽春の頃より社會的に働きかけるべく計畫中。尙會の用書はPuŝkinのTri Novelojを終つて、KalocsayのLingvo, Stilo, Formoに入つてゐる。

此の間、東大經濟學部其の他の學生數名に對し、本グルーポ（本鄕、森川町115昭和館）にて數回初等講習實施したが、學年試驗期切迫其の他で、時間に餘裕なく、所期の効果をあげ得ず、4月から出なほす。用書は「短講」を使つた。

評議員會 去る1月31日の理事、評議員會に於て評議員は每月第3月曜日に月例會を開き且つ每週月曜日は學會に參集する事に申合せました。

★慶應エスペラント會——今春目出度く卒業の榮を擔はれる醫學部學生三宅安三郎、瀧口正雨君の爲め三田、日吉エス會聯合にて去る2月10日午後6時30分より日比谷美松階上に於て心ばかりの送別會を催した。參加者15名、九時散會、盛會であつた。

橫濱 **★橫濱エス協會**——每木曜夜7時より住吉町メツセンヂヤーボーイ事務所內クラブ室にて。7時半から約1時間宛每回中等讀本の輪讀、後は會話、歌の練習を行つてゐる。2月中に讀了して3月から新しい研究を行ふ豫定。出席者は10名位。古いS-anojの顏が見えぬのは淋しい。

★YMCA-Grupo——每火金午後7時よりYMCAのクラブ室で研究會を開いてゐる。

仙臺 **★Vendreda Kunsido**——每金曜19時半から21時まで、明治製菓二階で最近は出席者每回4, 5名。

★“Vivo de Zam.” 研究會——1月24日第1回、2月7日第2回の會合を持つた。隔週日曜13時半から紅谷で、島貫清子、大泉八郎兩氏指導。

★醫學部エス會——參加者5,6名、每木曜、ザメンホフ讀本の輪讀を續けてゐる。

青森 **★靑森エス會**——月例會も會場に立看板だけで積極的に呼び掛けなかつた、集る者15名。參會總延人員137名。少し宛減つて行く。雪溶ける頃には此の不安も

吹つ飛ばうに——。Abocanoj の加入に繼ぐ malnovuloj の倦怠。こゝのエス會合にはエス語が珍らしいと云ふ始末。勇氣と力が要る。集る者だけが年頭に決定された jarplano を果すのみ。

旭川 **★旭川エス會**——1 月 16 日第 6 回北海道エス大會準備委員會を會長宅にて開く。

大會期日　8 月 7 日(土)、8 日(日)

準備委員長、武田威勢、總務部、部長(兼)武田、部員、池田、工藤、盆子原。會計部、部長、川名、部員、藤田。教育部、松原、部員高宮、安達。通信部、部長、當摩、部員、菅原、竹吉、坂内。事務所旭川市一條通七丁目木津義雄方(前回報告の會話會名稱を「ノルダ・クンシード」と變更致します)。

帶廣 **★學會帶廣支部**——愈々融雪期も近かづいたので積極的に働く事になり規則的に會長宅に會合を持つ事になつた。

★東北エス會——橋谷田眼科階上に於て開催して居た本會主催の初等講習は大成裡に終り近く引續き中等講習をやる筈である。なほ本年は色々な催しをすべく計畫中である。



東北エス會講習會

右より星、藤田、岩井、阿部、池田講師、鷹谷、犬闕、脇坂の諸氏

富山 **婦南エス會**——1 月 27 日富山縣婦負郡八尾町附近の同志相集り婦南エスペラント會を創立した。目下會員 7 名、毎週土曜日 19 時より杉原村岩杉正一氏宅にて研究會を開催、各地同志の御援助を希望致します。

靜岡 **靜岡綠星倶樂部**——1 月は葵文庫の都合で研究會は續行できなかつた。2 月は乙組だけを梅屋町文扇堂文具店の二階で同主人飯塚氏(梶氏在靜當時同氏の講習を受け目下冬眠中の人)の好意により、無料開放をうけ第 1 土曜より臨時會場に決定。指導者飯塚傳太郎氏不在中に付桝野助治郎氏代理指導。中級組の會場を毎週土曜 19 時より高橋邦太郎氏宅に決定せしも同氏病氣のため目下開講未定。しかし 3 月よりは葵文庫にて毎週開催確定。1 月 15 日市公會堂地下食堂にて 19 時より月例會開催。出席、高橋、飯塚、坂本、岡部、平瀨、マスノ他 14名。會費 20 錢。學會文部設立の件次回持越となる。其他 amuzaĵo.

◇中級部研究會、毎土曜 19 時より高橋邦太郎氏宅にて 2 月中だけ開催の筈なりしも先生御病氣のため來る第 3 木曜より杉本良氏宅にて開くことに決定。

◇初級部研究會、毎土曜 19 時より梅屋町文扇堂書店にて、第 1 土曜出席 8 名。講師桝野助治郎氏、エス讀本にて講讀、書取、會話、21 時半散會。第 2 土曜出席 4 名、講師平瀨定知氏。

◇月例會、15 日 19 時より市公會堂地下食堂會費 20 錢、出席 11 名(杉本良、坂本義作富永齊、マスノ其他)高橋邦太郎氏病氣缺席飯塚傳太郎、平瀨定知氏事故缺席、決議事項 1. 學會靜岡支部設立に付出席全員の署名を受く、2. 支部及倶樂部の規約制定、3. 支部に關する一切の事務をマスノ氏に委囑但暫定的なり、4. 月例會に靜岡年中行事のエス文を各自持ち寄り、將來靜岡案內記作成の下準備とす。次回會合出題「三月の靜岡」。5. 學會々員增加運動に參加。その他當會員に學會の歷史や仕事のことに付て知らせ學會支持の氣持を强からしめんため RO 所載の岡本氏の「學會第一主義を持して」を讀み上げる。これは司會者個人の提案に全員賛成した上のことである。なほ支部會員は 20 名を獲得する見込あり。靜岡綠星倶樂部の konstanta kunvenejo は毎月 15 日市公會堂地下食堂、毎週木曜葵文庫共に 19 時より。

名古屋 ★名古屋に開かれる太平洋研究會に參與方各方面に御送した處イタリー首相ムツソリニー氏、ウイン市長スミス氏等よりエス文の鄭重な挨拶狀が來た。

名古屋のエス語普及運動を助けて居てくれたヨセフ・マヨール氏は 2 月 12 日神戸發上海へ去られた。

★名古屋エス會・ルーマ・クンシード合併祝賀會並名古屋學會名古屋支の部設立決議——2 月10日午後6時第一ホテルにて名古屋ルーマ、エスペランタ、クンシド及名古屋エスペラン

ト會の創立滿5周年祝賀會を合同にて擧行す。
6 時 30 分尾崎氏司會のもとに先づ祝賀會に移り、晩餐、各會の總會、N.E.S. の竹中氏立ち次で N.L.E.K. の林氏の報告を終へ來賓代表水野淳二氏の御挨拶池田氏の答辭後直ちに學會支部設立の議事に入り由比氏の説明後討論、滿場一致にて設立を要望右學會へ申請すべく委員附託。席上直ちに發起人の連署を求む。

餘興に移り竹中、林その他エス歌あまたにて興奮のさめやらぬ内にエスペーロ、タギーヨ、君が代合唱、10 時盛會裡に散會す。

★名古屋エス會――2 月から木曜のジヤウダクルソを止め月曜日の輪讀會に合併し「東洋の狹血兒」を讀む。會場わ從前通中區鐵砲町 2 丁目白木氏方、最近の出席者わ毎回 10 名内外。

桑名

★桑名エス會――◇例會――毎月 1, 3日曜五井病院にて活潑に行はれ、11 月 1 日 10 名。11月8日 名古屋エス會の由比、竹中、山崎氏等を迎え會員 9 名出席。愉快な一席を過す。12月 6 日 4 名。1 月 17 日北勢エス聯盟總會をひらき規約を制定し役員を選擧し記念撮影の後懇談會にいり、活潑な討議が行はれた。四日市より 6 名、桑名より 13 名出席。2 月 7 日 9 名。松岡君、「音樂と生活」、吉岡君、「Vila Mano」、paroladoj 次で活潑な討論が行はれ非常な盛會であつた。尙今後とも毎回責任者をえらんで Esp で演説、後それについて討論することになつた。

◇ザ祭 12 月 3 日旭食堂にて KEK•HEL 合同にて開催。四日市より 2 名、桑名より 13 名出席。各ロンド報告、自巳紹介、福田君、「ザメンホ祭の意義と歷史」の演説、種々餘興に立派なお祭だつた。

◇輪讀會、テキスト、スラヴ篇、10 月 21 日 2 名、25 日 4 名、11 月 4 日 3 名、15 日 5 名、22 日 2 名。29 日 5 名、1 月 24 日 3 名、2 月 14 日 2 名、色々な都合で活潑でなく、打開策が考えらている。

◇ヴィリーナ R. 未だ生れたばかり、小さなものだが毎週日曜午後 1 時より ,Al Torento, をテキストとして輪讀會をしている。毎回出席 2, 3 名で現在わ五井氏の指導をうけている。(ヴィイリーナ•ロンドに對する通信もすべて三重縣桑名郡桑部加藤宛にて願ます)

◇初等講習會、11 月一杯、18 日間開かれたが好成績を得ることが出來なかつた。最後まで殘つた新しい人は 3, 4 人といふみじめさ。然し來る 4 月再び初等、中等の講習會をひらく筈。講習會の指導方法等につき種々討論を希望します(宛名は加藤へ)

◇機關誌、回覽雜誌 HEL 及び La Pramo わ毎月出され、大きな役割を果している。3 月中旬これら回覽誌中より編輯した HEL 第二號(全エス文 100 頁以上)が出る豫定、各地方會と交換希望、(希望の會わ加藤まで一報下さい Informilo として、Nia Paŝo が毎月出ている、各地方會からの投稿を希望します。毎月 8 頁位。)

熊本

★綠星社――エスペラント印刷出版組合 „綠星社“ 創立――文献擴充を第一目的とせる Presa kaj Eldona Kooperativo Esperantista (略稱 PEKE) „Verda Stelo“ を創立した。この組合はエスペランチストの出資金(一口五圓。目下組合員募集中趣意書、規約申込次第送呈)を以て一般印刷營業を行ひ、その純益をもつて年一册以上學會推薦の重要著作を全然採算を度外視して出版しようと言ふ趣向である。組合員は配當の外、出版圖書を無料又は實費で、印刷料を割引して貰へる。開業は 3 月 1 日。著作出版希望者は學會の推薦を求められたし。事務所は熊本縣宇土町門內市原耿路方。

宮崎

☆宮崎エス會――最近二人の同志を滿洲へ送つた。一人は F-ino Kikuĉi が S-ino Jocumoto となつて四平街へ、一人は S-ro Kaŭano がハルピンへ。菊池孃の送別會(寫眞參照)は 1 月 13 日、川野氏の送別會(寫眞參照)は 2 月 4 日、郡司邸に於て開催した。



宮崎エス會の菊池孃送別會

右より〔前列〕本鄉、郡司夫人、杉田孃、菊池孃、杉田孃、崎村、〔後列〕瑛九、福田、古田、寺澤、杉田、山下、渡部、川野、大坪の諸氏



宮崎エス會の川野氏送別會

右より〔前列〕渡部、川野、本郷、〔後列〕福田、瑛九、杉田、古田、崎村、杉田孃、寺澤の諸氏

Nia Ŭaĉjo こと S-ro Ŭatanabe が三國ならぬ MES 一の花婿となつて Fraŭloj を羨しがらせてゐる。やがて新家庭の營み一段落つけば Verda Hejmo が彌榮えるであらうと期待されてゐる。例會では毎週火曜夜7時より8時まで初等に「イワンの馬鹿」をやり8時より研究に「ザ博士の演説集」の通譯練習をやつてゐる。

鐵・道・と・エ・ス

東京 中等講習繼續中、講師田中信之氏、受講者の出席率は餘りよからず。木曜研究會出席者少數乍ら續開、用書 Inte rompita kanto. Nova Kun ido 新宿のこの會話會も冬枯れ狀態、併し舊顏が再び活動を始めた樣だからそのうちに賑かにならう。

札幌 新年初顏合會を1月8日開き次の如き方針を決定した。

1. 講習會 昨年末の初等講習會に引續いてエスペラント讀本により毎週火金の2回開く、講師として後藤、小森の兩氏その任に當る。

1. 輪讀會 昨年輪講中 interrompi された La interrompita kanto を再び木曜に開く。

1. 會話會 月、水、木、金の毎晝休みを利用して應接室に於て會話の練習をする。

札幌エス會との合同主催の會話會の日取を次の通り變更、毎月第二、四金曜、(場所は前と同じく明治喫茶店二階。)

室蘭 講習會を前年に引續き1月14日より捷徑を用書として開いてゐる。講師三崎氏、受講者は少數乍ら講師と共に熱があり有望である。

旭川 北海道大會準備に着手、全會員の活動に俟つ、會話會、毎週月曜午後7時よりコロンビヤ喫茶店階上に開くことに決定、Norda kunsido と名付けた。講習會 2月4日より2ケ月間の豫家で開くことに決定、講師菅原鐵雄氏。

京城 第2回初等講習會 1月18日より向ふ8週間、毎週月、水、金、退廳後約1時間半、講師大山氏、第1回中等講習會 1月19日より向ふ8週間、週2回火木退廳後1時間半、矢島氏指導してイソツプを讀む。

各地報道追加

(2月18日以後着到分)

東京 **★淺草エス會**――本會創立滿一周年を迎へ2月19日午後7時より例會場にてその記念茶話會を開催した。出席者20名、多羅尾、原田兩氏の記念講演その他會員の Salutoj 記念撮影等早春の一夕を賑かな交歡に送る。

盛岡 **★盛岡エス會** 第156回例會、1月13日、出席6名。本年最初の會合とて、例年の如く、井川先生からお正月の御馳走を頂き一同恐縮。女師校の松木先生より月末同校内に於てエス語講演會開催の計畫を伺ひ一同祝盃を擧ぐ。第157回例會、1月20日、第158回例會、1月27日、第159回例會、2月3日、第160回例會、2月10日、第161回例會。2月17日、毎回出席3-4名。Japanujo Hodiaŭ の輪讀と Korespondaĵoj の整理。女師校に於ける講演會の日時が3月に延引されたので其時の參考資料にもと、切手、繪葉書、各國案內誌など例會の餘暇を利用して整理。今年度より岩手日報の「異國便り」は「エス語通信世界風俗誌」と改名され責任重大となる。

弘前 **★弘前エス會**――毎週木曜の輪講例會を今度から第1第3土曜夜6時半からに變更したザ讀本第二卷、集まるもの毎回6-7人冬にもめげず相當元氣であるぼつかりと新顏が見えたりもする。同志よ暇をつくつて來てくれ! (新寺町正蓮寺にて)

松代 **★松代エス會**――2月11日第1回例會を栗林會長宅にて開く、カルタや隱し藝をやつて仲々愉快であつた。講習日を次の如く決定した。初等科、月、木、中等科、

火金、會話會火、毎回 19-21, 會長宅にて、2月27,28兩日地藏峠スキー場へスキー行をする事に決定した。

札幌 **★札幌エス會**——毎週水曜日 19-21時例會、用書ザ讀本卷一、會場北二西十四高瀬正榮方。◇1月20日、27日、2月3日、10日、17日、例會開催。内外の會員白魔を衝いて集合する。毎回10名内外出席、2月17日現在ザ讀本 "Revizoro" 終了。◇2月6日相澤氏小樽訪問、福田、高橋兩氏と會談。

★札幌會話會——毎月第2, 第4金曜日狸小路明治製菓樓上に開催、札幌エス會、札鐵エス會、會員毎回7-8名出席。◇1月22日7名。◇2月12日、8名、小樽から福田氏出席能辯の模範を示す。

大阪 **★大阪エス會**——例會は豫告の通り行はれた。池川氏の話は都合で延期。4月に大々的に展覧會をやる豫定で世界各國から材料を集める爲、各 Landaj Asocioj に交換の提案をした。

OES 例會豫告——毎週火曜午後7時から東市民館(谷町4丁目)で例會、北歐篇研究。第3火曜は Trapezo で會話會。例會特別講演: 3月2日東市民館長福井宗二郎氏(大阪の社會施設)、3月23日宮川省三氏(パリでのエスペラント生活)。總會: 3月12日。

Komuna Vespermanĝo 豫告。3月12日午後6時野村ビル如水會食堂。講演: 池川清氏(歐米エスペラント行脚)。OES 總會。夕食代 60 錢。

ANONCETO

綠化組報告 葛西(青森)、竹中(名古屋)、阿部(大阪)、本田(熊本)、諸氏近況御知らせ下さい。(原田)

渡部秀男(東京)紹介新學會員——笹原茂三郎氏、鈴木辰男氏

原田三馬(東京)紹介新學會員——佐野孝氏 金澤烈氏、玉川勝太郎氏

AL ĈIUJ NI PETAS!

淺草エス會調査部

「エス學習動機に關する調査」——右調査に就ては目下鋭意努力中ですが未だ各地よりの回答が揃はぬため具體的發表が出來かねて居ります。再三御願ひ申してありますが御記入濟みの調査用紙は至急に所屬の地方會、或は學會宛御送附下さい。尚用紙不足は御申越次第直ちにお送り致します。(宛名學會内渡部)

新聞雜誌とエス

★靜岡民友新聞(1月26日、2月2, 9日)——日米女子親善に使して——磯部幸子孃。

★岩手日報(1月30日)——山の無い國です——安本靜江孃譯。(1月31日)——ナチス獨逸と親密——安本靜江孃譯。

★北陸日日新聞(1月22, 26, 27, 28, 29, 30日)——エスペラントは最も優れた國際語であるか——岡本好次氏。

★眞人道(1月30日434號)——國語よりエス語を。

★東京日日新聞(12月1日ニュース籠)——エスペラントのガイド。

★大阪朝日新聞(1月19日和歌山版)——新興ナチの國から日の丸を送つてネ、エス語が結ぶ親善の手紙(記事)。

★岩手日報(1月17日)——異國の旅の想ひ出話——岩手醫專教授金野巖博士の談話記事の中でエス語に觸れてゐる。

★北國夕刊新聞(1月26日)——エスペランチストよ御交際を願ます。

★函館の青年(23號)—— enhavo にエス語を使用してゐる。

★交通評論(2月號14卷2號)——汽車今昔物語——小坂狷二氏。

★愛媛支會報(1月號)——希望する者エスペラント——村上松行氏。

★無線通信(2月號)——エスペラントの頁。

★生活學校(從前より La Vivada Lernejo なる subtitolo を入れてゐる)2月號——表紙にザ博士の肖像を入れ詳しい紹介記事あり。

地方會機關誌その他

★La Fenikso(旭川)(7號)8頁、第6回北海道エスペラント大會準備記事。

★La Fervojisto(東京)(63號)菊判20頁オリンピツクと觀光事業——田誠氏。Du malnovaj rakontetoj(萬澤)。

★Forta Voko(北陸エス聯盟)(15號)34號。Ho, kiel mi estas feliĉa(角尾)、Mirakla statuo de Avalokitesvaro(矢德)、Ŝerco al granda humoristo(菅野)、Historieto de la japana Kino(野村)、Riutoŭin kaj Ŝirara(渡部)。

★FER(東京)(12號)16頁機關誌 FER 休刊に就て。

★Nia Paŝo(北勢エス聯盟)(2月號)聯盟總會報告記。

エスペラント運動後援會報告 (8)

2月13日(土)午後6.30-9.00第8回幹事會。出席、小坂、三石、伊藤(已)、大木、原田、渡部、久保、學會事務部より岡本、三宅、兩氏。

報　告

〔支　出〕

2/5	現代廣告料 (1 月號)	31.25
„	文藝春秋廣告料 (1 月號)	17.00
2.6	全國重要圖書館へエスペラント圖書寄贈 (50ケ所)	44.50

〔事　項〕

クララ會が全國重要圖書館にエス語圖書寄贈の仕事を手助ふ。

先月の報告で御承知のやうに、エスペラントの名前を知つてはゐるが、積極的に之を學ばうといふ氣持を起す機會がない人々が日本全國には可成澤山ゐることと思はれる。さういふ人達が、圖書館で偶然エスペラントの本を見て急に思ひ起つことを期待して、各地の圖書館にエス語圖書を寄贈することになつた。幹事會の決定後、直ちに實行に着手すべきであつたが、生憎女事務員加世氏が欠勤中であつたため、渉らずにをつた。ところが、東京、婦人エスペラント團體であるクララ會の方でも同様の計畫を平行的に建ててゐたので、後援會の發送の仕事をやつて頂くことをお願ひしたところ、快諾があり、下記のやうに非常に手早く實現されるに至つた。後援會としても、同會の人々に深く感謝致したい。

★日本中何處の圖書館に行つてもエスペラントの本の無い所はないようにとは、かねての私達の希望。丁度エスペラント後援會が此問題を取り上げて實行なさる由を伺ひ、早速クララ會の二三の有志を動員し2月6日午後學會に御手傳に參上、50圓の豫算で各府縣道廳の中央圖書館五十館(別項記載)へ「エスペラント捷徑」「愛の人ザメンホフ」「國語の擁護を論じて國際語に及ぶ」及昨年度の「エスペラント誌」を寄贈した。

寄贈先圖書館名

北海道廳立(札幌市)、青森縣立(青森市)、岩手縣立(盛岡市)、宮城縣立(仙臺市)、秋田縣立(秋田市)、山形縣立(山形市)、福島縣立(福島市)、茨城縣立(水戶市)、埼玉縣立(浦和市)、千葉縣立(千葉市)、新潟縣立(新潟市)、石川縣立(金澤市)、山梨縣立(甲府市)、縣立長野(長野市)、岐阜縣立(岐阜市)、縣立葵文庫(靜岡市)、京都府立(京都市)、大阪府立(大阪市)、奈良縣立(奈良市)、和歌山縣立(和歌山市)、鳥取縣立(鳥取市)、岡山縣立(岡山市)、山口縣立(山口市)、山口縣立(萩市)、德島縣立光慶(德島市)、香川縣立(高松市)、愛媛縣立(松山市)、高知縣立(高知市)、福岡縣立(福岡市)、縣立佐賀(佐賀市)、長崎縣立(長崎市)、熊本縣立(熊本市)、熊本縣立清浦文庫(來民町)、大分縣立(大分市)、宮崎縣立(宮崎市)、同都城(都城市)、同延岡(延岡市)、鹿兒島立縣(鹿兒島市)、沖繩縣立(那覇市)、市立小樽、市立函館、室蘭市、富山市立、朝鮮總督府立(京城府)、京城府立(京城府)、京城府立鐘路分館、平壤府立(平壤府)、臺灣總督府(臺北市)、臺中州立(臺中市)、臺南(臺南市)、樺太教育會附屬(豐原町)〔以上圖書館名は「圖書館」の三字省略〕(クララ會碧川澄)

尙上の仕事に携つたのはクララ會、井田千枝、碧川澄、栗山五百枝の三氏、後援會原田、久保で、學會より岡本、三宅兩氏の協力を得た。

エスペラント週間

4月12日―18日をエスペラント週間とし

て、ザメンホフの永眠の14日をはさんで、全國的に一齊に、エスペラント運動に活氣を入れることになつたことは、前號で御報告の通り。(その計畫等に就いては、卷頭論文を御覽下さい。)後援會としてエスペラント週間にも用ゐられ且本年はエスペラント發表 50 周年であるから、今年度中いつでも使用出來るポスターを作製(目下準備中)するために豫算を10 圓計上した。

文筆家への問合せ

質問書の手紙も印刷されたので、近日中、渡邊幹事の手によつて、約300人程に發送される筈。

代議士パンフレットを會員へ配布

昨年作製された「衆議院議員のエス語に關する意見」の小册子は、會員へ配布すべきところ、延引してをつたが、最近再版が出來上つたので、後援會會員に發送した。ne-esperantistoj を啓蒙するには、實に有力な材料であるから大いに御利用下さい。

貴族院議員へ問合せ

代議士問合せは、非常な好評で、永田秀次郎氏の「我國民の世界的地位」と共に、各方面に配布されてをるが、更に、貴族院へも働きかけることに決定。これは學會の名で、代議士に送つたのと同樣の質問書を發すること になつた。その結果は期待されたい。

會計からのお願ひ

後援會に寄附御申込みの會員で、未だ會費を御送り下さらない方に、3 月末日が、昭和11年度會計年度末になります故、御拂込み下さるよう御願ひ申上げます。

新幹事

新しく松本健一氏及久留幸男氏(東大醫學部在學)が幹事として決定された。

拂込濟會費合計　　　1,544.31 圓

——Feb. 15 久保記——

エスペラント週間 4月12—18日

エス語で及びエス語についてのラヂオ放送一覽表追加

前號に發表のものゝ追加及正誤

★49 頁(5 頁)右欄第 2 行目を除く。

★49 頁(5 頁)右欄 24 行違藤は遠藤の誤。

★1925 年 10 月 17 日、19 時—19 時半、JOCK, 倉地治夫氏、pri Esp.

★1927 年 4 月 14 日、JOCK, 吉井良成氏、pri Esp.

★1928 年 1 月 9 日 18 時 45 分—19 時 23 分、JOCK, 倉地治夫氏、pri Esp.

★1928 年 1 月 10 日 18 時 45 分—19 時 15 分、JOCK, 倉地治夫氏、pri Esp. (前日の續講)(注意 1928 年 1 月 10 日(?)の項は削除)。

★1932 年 5 月 2 日(10 日?)、JOHK, J. Major 氏、en Esp.

★1932 年 12 月 12 日、JFAK, J. Major 氏、en Esp.

★1935 年 9 月 22 日、JOCK, 第 23 回日本エス大會プログラーモ及決議事項に關しニュースとして放送。

★1935 年 12 月 14 日 17 時 35—18 時、JOHK, 菊澤季生氏、pri Esp., Esp. kanto.

お願ひ　前號一覽表中の誤り及脱落おしらせ下さい。隨時訂正しますから。

財團法人日本エスペラント學會

會　計　報　告

（昭和十一年十二月末日現在） 1936

〔A〕 財團法人基金會計

	円
基金總額	17,344.32
前年度末現在	16,896.18
本年度增加額	448.14
內　譯	
（イ） 永代基金總計	13,044.32
前年度末現在	12,596.18
本年度寄附金	20.00
同　預金利息	428.14
保管處置	
三井信託預金（大石）	11,026.55
住友銀行預金（大井）	1,648.51
安田貯蓄預金（三石）	369.26
計	13,044.32
（ロ）・常用基金總計（增減ナシ）	4,300.00

保管處置
昭和七年理事會ノ承認ヲ經テ全額本會事務所建築費ノ一部ニ利用

〔B〕 維持員負擔會計

★收　入★

普通維持員會費	1,617.71
正維持員會費	1,793.18
贊助維持員會費	157.00
特別維持員會費	115.00
前年度旣納諸會費	1,237.15
以上合計	4,920.04
內次年度分前納諸會費	1,519.10
差引本年度會費實收入	3,400.94
R. O. 廣告收入	168.70
雜收入（利子、レヴオ分册其他）	161.72
年鑑發行準備金	127.49
以上本年度實收入總計	3,858.85

★支　出★

R. O. 印刷費	1,913.36
同　發送費	234.95
事　務　費	630.00
宣　傳　費	179.87
地方會補助費	33.62
維持員總會費（大會寄附）	60.00
文　庫　費	20.50
1937 年度年鑑發行準備金	100.22
共通負擔費	686.33
以上支出合計	3,858.85

收支ノ結果 100.22 圓ノ剩餘金ヲ生ジタルヲ以テ次年度年鑑發行準備金トシテ次年度豫算ニ計上ス。剩餘金ヲ生ジタル理由ハ UEA 賦課金ノ保留ト年鑑發行ヲ中止シタル故

◎次年度維持員會費繰越額	1,519.10
內　譯	
普通維持員會費	560.80
正維持員會費	836.40
贊助維持員會費	71.00
特別維持員會費	50.90

〔C〕 事業部負擔會計

★收　入★

エス誌大取次賣上收入	1,822.04
同　購讀料本年度收入	657.54
同　前年度旣納購讀料	227.31
同　雜收入（分册賣上其他）	196.86
以上合計	2,903.75
內次年度エス誌前納購讀料	257.00
小計（差引エス誌實收入）	2,646.75
本會出版物賣上高ヨリ	1,360.75
取次和洋書賣上高ヨリ	773.96
不足金（出版部積立金ヨリ）補塡	275.89
小　計	2,410.60
以上收入合計	5,057.35

★支　出★

エス誌印刷費	2,114.55
同　發送費	47.15
同　宣傳費	43.25
小　計	2.204.95
R. O. へ廣告費	168.00
其他ノ廣告費	33.55
印刷費（目錄其他）	73.00
事　務　費	1.540.95
雜　經　費	7.44

共通負擔費……………………… 1,029.46

小　　計……………………	2,852.40
以上支出合計	5,057.35

收支ノ結果 275.89 圓不足ヲ生ジタルヲ以テ取次圖書部積立金ヨリ補塡ス

◎次年度エス誌購讀料繰越額……… 257.00

〔C〕 共通負擔費明細

費目	維持員會計 40%	事業部會計 60%	總計
通信費	180.27	270.39	450.66
振替貯金料金	3.70	5.55	9.25
備品及設備費	70.90	106.34	177.24
消耗品費	74.15	111.23	185.38
事務所維持費	157.30	235.94	393.24
諸會合費	3.80	5.71	9.51
火災保險費	45.89	68.83	114.72
電話費	36.33	54.50	90.83
諸稅金	49.75	74.62	124.37
臨時費	64.24	96.35	160.59
計	686.33	1,029.46	1,715.79

〔D〕 圖書取次出版勘定

★收　入★

本會出版物總賣上高……………	4,535.81
取次和洋書總賣上高……………	5,159.64
前年度ヨリ繰越資金………………	260.18
以上收入合計	9,955.63

支　出★

本會發行圖書費……………………	2,722.03
取次圖書仕入費……………………	3,588.73
事業部會計負擔費…………………	2,134.71
事業部會計不足補塡………………	275.89
借入金返濟(特別積立金へ)……	1,000.00
次年度出版圖書部繰越資金……	234.27
以上支出合計	9,955.63

〔E〕 資産勘定

永代基金………………………………	13,044.32
常用基金……利用中……………	0
次年度繰越維持員會費……………	1,519.10
同　　エス誌購讀料……………	257.00
年鑑發行準備金……………………	100.22
特別宣傳資金………………………	45.95
出版圖書部繰越資金………………	234.27
教育部積立金………………………	475.08
U. E. A. 賦課金積立………………	235.00
特別積立金…………………………	1,271.16
特別出版資金……利用中………	0
出版圖書部諸預リ金………………	235.42
以上現金合計 (1)	17,417.52
學會出版物在庫見積額……………	14,852,17
取次和洋書在庫見積額……………	4,852.92
不動產評價見積額…………………	16,426.95
以上商品及不動產合計 (2)	36,132.04
(1) (2) 總合計	53,549.56

◎不動產内譯

事務所敷地(昭七年購入價額)…	9,750.00
家屋及雜作(同　建築費額)…	6,676.95

〔F〕 資産目錄 (保管處置)

三井信託預金………………………	11,026.55
住友銀行預金………………………	1,648.51
安田貯蓄預金………………………	3.499.55
振替及郵便保證金…………………	119.00
東京振替口座 (11325)……………	709.30
同　　上 (32085)……………	177.53
現金在庫……………………………	237.08
以上現金合計	17,417.52
在庫商品圖書見積額………………	19,705.09
本會所有地坪數……………………	80坪3合3勺
事務所建物(雜作付)延坪……	60 „ 7 „ 5 „
電話…………………………………	1
本會文庫書籍部數…………………	2850
事務用テーブル類…………………	11
同上　廻轉椅子……………………	6
應接用テーブル……………………	2
同上　椅子…………………………	3
布張椅子……………………………	12
講習用長机…………………………	14
同上　木臺椅子……………………	30
集會用籐椅子………………………	36
額類…………………………………	7
各種書類箱及本箱…………………	22
石炭ストーブ(大小)……………	2
時計…………………………………	2
謄寫版器……………………………	2
秤 (大小)	2
安全書庫……………………………	1
タイプライター……………………	1
宛名印刷器…………………………	1

昭和十二年度通常經費豫算

〔A〕 維持員負擔會計

★收　入★

	人	円
普通維持員會費	560×2.40	1,368.00
正　維持員會費	650×3.00	1,965.00
賛助維持員會費	29×5.00	145.00
特別維持員會費	9×10.00	90.00
終身維持員會費	16×0	0
小　計	1264 人	3,568.00
レヴォ廣告收入(14圓×12月)事業部ヨリ		168.00
雜收入(レヴォ分册、利子其他 13圓×12月)		156.00
年鑑發行準備金(前年度剩餘金)		100.22
UEA 賦課金積立繰入		235.00
小　計		659.22
以上收入合計		4 227.22

★支　出★

R. O. 發行費	1,800,00
同　發送費	310.00
年鑑發行費	100.22
事務諸給費	720.00
宣傳費	250.00
地方會補助費	36.00
維持員總會費(大會寄附)	60.00
UEA 賦課金	235.00
文庫費	20.00
共通負擔費(40% 負擔)内譯參照	696.00
以上支出合計	4,227.22

〔B〕 圖書部負擔會計

★收　入★

エス誌購讀料(290人×月 2.30 圓)	667.00
同　大取次賣上(月千部×0.144 圓)	1,728.00
同　分册賣上其他(月額 15 圓)	180.00
小　計	2,575.00
本會出版物賣上	4,300.00
取次和洋書賣上	4,500.00
前年度ヨリ繰越資金	234.27
小　計	9,034.27
以上收入合計	11,609.27

★支　出★

エス誌發行費	2,200.00
同　發送費(雜誌協會返本費ヲ含ム)	60.00
小　計	2,260.00
出版印刷費(再版、新刊)	2,300.00
取次和洋書仕入費	3,200.00
小　計	5,500 00
R. O. 誌廣告費	168.00
宣傳費(其他ノ廣告費ヲ含ム)	150.00
圖書目錄、廣告刷等印刷費	100.00
事務諸給費	2,000,00
雜經費(包裝、發送、其他雜費)	100,00
共通負擔費 60% 負擔内譯參照	1,044,00
小　計	3,562,00
合　計	11,322,00
次年度繰越出版部資金	287.27
以上支出合計	11,609.27

共通負擔費内譯

費目	維持員會計 40%	事業部會計 60%	總計
通信費	200.00	300.00	500.00
振替貯金料金	4.00	6.00	10.00
備品及設備費	80.00	120.00	200.00
消耗品費	74.00	111.00	185.00
事務所維持費	160.00	240.00	400.00
諸會合費	14.00	21.00	35.00
火災保險費	44.00	66.00	110.00
電話費	36.00	54.00	90.00
諸税金	52.00	78.00	130.00
臨時費	32.00	48.00	80.00
計	696.00	1,044.00	1,740.00

總豫算收支額

維持員負擔會計	4,227.22
圖書部負擔會計	11,609.27
總　計	15,836.49

昭和十一年度永代基金領收報告

20.00 圓 ……………………………渡部秀男氏

財團法人日本エスペラント學會昭和十一年度報告

★役員會報告: 昭和11年1月26日理事會開催。1. 拾年度一般會務報告。2. 同會計決算報告。3. 拾壹年度會計豫算決定。4. 評議員改選。5. 拾壹年度事業方針の協議。

★11年12月13日理事會及評議員會開催。1. 拾壹年度業務狀勢報告。2. 維持員總會(札幌大會)に於ける狀勢及び東北地方特使派遣(岡本)報告。3. 昭和12年度豫算大綱審議。4. 理事、監事任期滿了につき理事長は評議員會の意見を徵し新任理事監事及常務理事を決定すべき評議員會の推薦決議を求むる件。5. 12年度に於ける運動及事業方針に關する協議。6. UEA と IEL 問題の對策。

昭和12年度以降の理事、監事、常務理事下記の通り評議員會に於て推薦さる。

重任理事: 大石和三郎、井上仁吉、井上萬壽藏、上野孝男、小坂狷二、大井學、川原次吉郎、黑板勝美、土岐善麿、西成甫、藤澤親雄、前田穰、美野田琢磨、望月周三郎、柳田國男、三石五六 **新任**: 田誠以上十七名。**常務理事**: 美野田、小坂、大井、三石の四名。**監事**: 淸水勝雄、鈴木正夫、堀眞道、以上重任、丸山丈作新任、以上四名、上記役員は何れも就任を承諾さる。

★事業報告概要: 1. 機關誌レヴォ並に雜誌エスペラントの月刊定期發行。2. 常設的講習會並に研究會の開催。3. 地方エス會及展覽會等の後援。4. 夏期大學開催。5. 特使派遣東北、北海道地方に於けるエス語普及狀態を視察のため。6. 圖書の出版、日本書紀第二編(11月)。7. 海外發行圖書並に雜誌の取次輸入及び我國に於ける發行圖書を海外輸出し文化の世界的發揚に資する等、以上。

★會計決算報告概要 1. **基金**: 寄附金20圓と預金利子428.14圓計448.14圓の增加で總額13,044.32圓となる。常用基金は以前本會建設費の一部に利用中である。2. **維持員負擔會計**: 收支總額3,858.85圓、收入內譯に於て會費收入は豫算に比し580圓增したが其他の種目に於て136圓の減收差引444圓の增收を得たが一方レヴォ增頁の結果印刷費と發送費とで415圓、事務費で30圓、計445圓の支出增加で相殺となる。尙豫算では共通負擔費が32%で有つたが事業部との均衡上40%に變更の結果200圓增しとなり之れが補塡には年鑑發行中止とUEA賦課金支拂保留による約300圓の豫算額を充當、差引100圓の剩餘金を生ずるので年鑑發行準備金として次年度豫算に繰越計上した次第である。3. **事業部負擔會計**: 收支總額5,057.35圓、豫算に比しエス誌賣上收入は約190圓增したが圖書賣上高よりの收入が約237圓減じたるため差引約45圓の收入減であつた。一方支出は豫算に比し170圓程の節約を得たので收支差引275圓餘の不足補塡で決算が出來た次第である、豫算面では約400圓の不足で有つた。4. **圖書取次出版勘定**: 本年度圖書賣上高9,695.45圓、それに前年度より繰越の資金260.18圓を加へ合計9,955.63圓, が總收入である。前年度に比し5,132.73圓の減收で圖書賣上の不振は1928年この方八年ぶりであるが一方出費も少なく從つて前年度借入の特別積立金1,000圓を返濟、尙事業部の不足金275圓餘を補塡の上、次年度圖書部の資金として234.27圓を繰越し得た譯である。5. **資產勘定**: 現金總額17,417.52圓、商品及不動產總額36,132.04圓以上合計53,549.56圓で前年度よりは342.46圓の增加である。種目中說明を要するもの、特別宣傳資金: 据置、敎育部積立金: 475.08圓は本會主催の講習會費及び講堂使用料の積立である本年度總收入は334.80圓で講師謝禮其他の支出合計160.20圓を差引き殘り174.60圓に前年度よりの繰越金300.48圓を加算したものである。UEA賦課金: 据置、特別積立金: 1,271,46圓は功勞慰謝金として積立て來たもので本年度は圖書部より30圓を支出、前年度現在高241.16圓に加算、且つ前年度出版部へ貸出しの1,000圓が今回返濟されたので上記の現在額になつたのである。特別出版資金: 1,500圓は某氏寄附金なるも圖書部和エス出版費に今尙流用中。

★昭和12年度豫算: 本豫算編成に當り從來

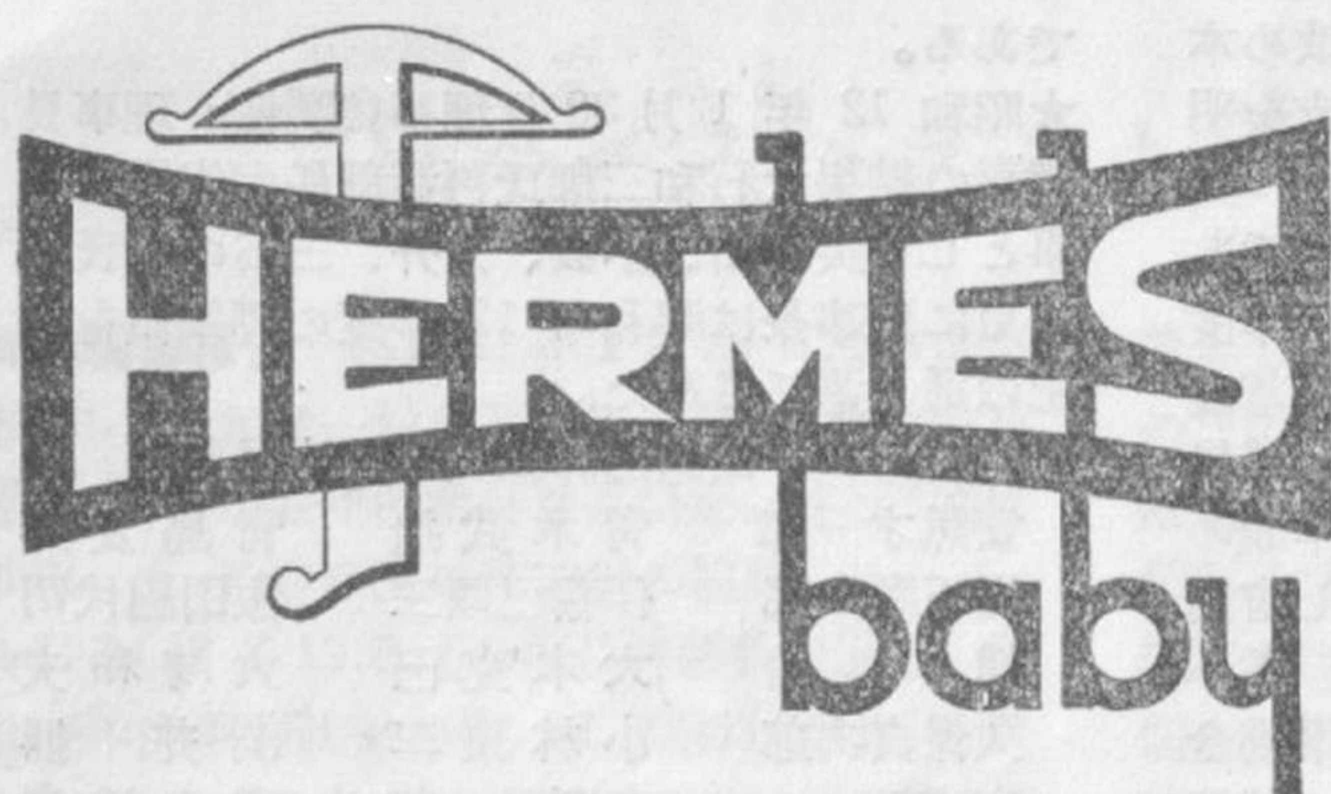
の事業部なる名稱を實質的の圖書部と改め本會發行の出版圖書及び取次和洋書の收支を明かにすると同時にエス誌の發行も圖書部の負擔事業として一切を賄ふ事は從前通りである。本豫算收支總額は 15,836.49 圓で前年度に比し 625 圓餘りの減額である。計算の基礎は總て前年度實績に依るものであるが維持員負擔會計に於ては維持員會費の收入を年頭の維持員數に乘積算出としたるにより若し會員が減少するに至つては缺損は免れまい。然かも UEA 賦課金支拂には今迄積立たる準備金を充當せざればならない程で可成苦しい狀態となつて來て居る。一方圖書部會計に於いても圖書の賣行が更に低下するときはこれまた事業遂行上重大なる支障を來たすので維持員諸氏は絶大なる支持を切望して止まない次第である。

★昭和 12 年 1 月 30 日理事會開催：理事長選擧の結果大石和三郎氏再選就任、尙常務理事として美野田、小坂、大井、三石の諸氏就任更に理事長は昭和年 12 年度の評議員を下記の通り選任された。

★昭和 12 年度選出評議員（五十音順）

安黑才一郎	靑木武造	靑島友美
岩下順太郎	伊藤己酉三	飯田鎗代司
浦　良治	大木克巳	大崎和夫
久保貞次郎	小林東二	酒井　鼎
守隨　一	多羅尾一郎	露木清彦
寺　喜久治	德田六郎	馬場清彦
原田三馬	福富義雄	保坂成之

萬澤まき子（以上 22 名再選）渡部秀男（新任）總員 23 名。



エスペラント☆用
タイプライタァ

英文，佛文も打てる

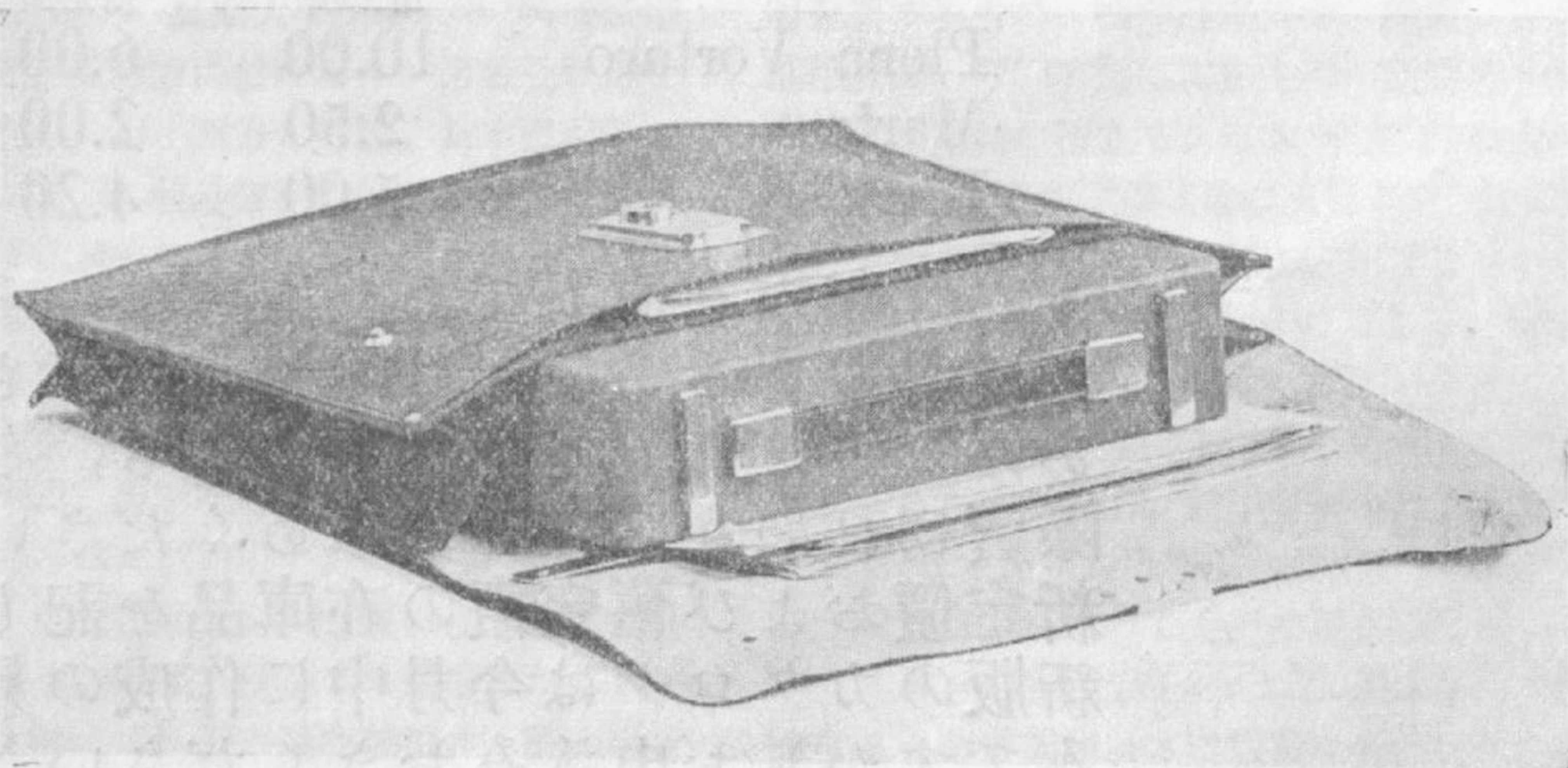
□説明書申込次第送呈□

重さ僅かに一貫目弱——御家庭に，事務所に，
空，陸，海の御旅行に，いつ，どこへでも，お供
できるヘルメス——定價僅かに百三十圓（送料不要）

HERMES-baby は最近數ケ年間における
タイプライタァ工業に一大飛躍を遂げた
革新的進歩の結晶です。輕快なタッチ，
淸新な外觀，高度の機能，そして，この
廉價——これは，その建造工程の天才的
簡易化の賜物に他なりません。

取次所：

財團法人 日本エスペラント學會 東京市本郷元町一丁目



エスペラント案内

最新刊

・定價30錢・送料2錢・

「エスペラントの知識と文法」城戸崎益敏著

宣傳文と文法と一册にまとめた――これは、ばらまく散彈的パンフレットではなく、狙ひ撃ちに、これと思ふ人に撃ち込む砲丸です。紙數は僅か四十八ペイヂですが、一ペイヂに一項目づつ盛つて、知識十五項、文法十五項、讀物七課。全文六ポイントと七ポイントできつちりつめこみ、内容は優に普通の本の百數十ペイヂにあたります。これ一册讀めば、エスペラントは何かといふことから、文法一般まで知りつくすことができます。寫眞版、凸版四十數個入り、印刷鮮明な、瀟洒たる美本。これを手にすれば、誰でもエスペラントをやつてみる氣になること請合ひです。

宣傳に大いに使つてください。まづ實物を一册御覧ください。

東京本郷元町一丁目　財團法人　**日本エスペラント學會**（振替東京一一三二五）

新　着

G. NORWAY: **LA AVENTUROJ DE MARTENO DRAKE**

四六判 206 ペイヂ・9 ポ密組・上製
今回入荷の品に限り特價 3 圓・送料 8 錢

流人の父を探して數千里、汽船のない時代の大西洋をわたつて新大陸アメリカ三界をうろつき歩く少年兄弟の數奇な運命の物語。

E M B A: **MARIA KAJ LA GRUPO**

四六判 172 ペイヂ・特價 1 圓 80 錢・送料 4 錢

はやく出るべくして出なかつたエスペランチストの生活を主材とした長編小說。作者 Emba は原作短篇作家として知られる人。特價は今回入荷の 20 部限り，至急御註文を！

新　刊

Historieto pri Japanujo

レヴーオ一月號掲載の日本小史・あなたの文通者に送るに手頃な美本です。大いに御利用あれ！

菊半截 50 ペイヂ・定價 20 錢・送料 2 錢

エスペラント・日本文・ローマ字 **正　信　偈**

LA PSALMO DE ĜUSTA KREDO

親鸞が教義を要約して讃歌とした眞宗で最も重要な聖典の平易な譯

——定價 40 錢・送料 2 錢——

東京本鄉元町・一　財團法人 **日本エスペラント學會**　振替東京 11325 電話小石川 5415

新川正一　**ベルリンまで**

新教育會議に列席のため渡歐した旅日記の一節・エスペラントのおかげでオリンピック入場券をたちまち入手した話

池川　清　**上海・エブナァ**

渡歐船中日記から・日本に來た墺國人同志から，同氏が日本で同志から受けた全歡待量を一人で返へしてもらつた話

淺田　一　**青年よ品行方正なれ**

青年男女に送る親切な性訓

伊井　迂　**エスペラントと音樂**

エスペラント國の祭政一致論

映畫物語　**熱**　パテ・ナタン映畫　**風**

その他，例によつて，小坂狷二「前置詞略解・EN」，中垣虎兒郎「自由作文講評」，三宅史平「和文エス譯講評」，岡本好次「質疑應答」，「初等讀物」等，等，興味のうちにエスペラントをぐんぐん自分のものにしてゆかれる記事滿載。

定價20錢・送料5厘・舊號見本切手10錢

一年分送料とも2圓30錢（創刊號から取揃えあり）

東京本鄉元町一　財團法人 日本エスペラント學會　電話小石川 5415　振替東京 11325

昭和十二年三月一日發行（毎月一回一日發行）
ラ・レヴオ・オリエンタ（エスペラント研究）第十八年第三號

定價廿錢（送料二錢）

編輯印刷兼發行人　財團法人 日本エスペラント學會　右代表 大井學